

アニュアルレビュー 2024

Annual Review



〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<https://www.ouj.ac.jp/>



アニュアルレビュー2024

Annual Review

CONTENTS

	発刊に寄せて 岩永 雅也	3
	特集(2024年度の主な出来事)	5
	学生に向けた教育	7
	社会に向けた教育	14
	放送大学における研究	20
	国際交流への取り組み	33
	教員による社会貢献	35
	学習センター・学生の活動	41
	データで見る放送大学	46

【企画】2024年度放送大学学内広報委員会
委員長:生活と福祉／戸ヶ里 泰典教授
副委員長:自然と環境／橋本 健朗教授
生活と福祉／山田 知子教授 心理と教育／高梨 利恵子准教授
社会と産業／山岡 龍一教授 人間と文化／杉森 哲也教授
情報／平岡 育士准教授
茨城学習センター／小野寺 淳所長 学習センター支援室／小野 耕志室長
オブザーバー:林 徹副学長
事務局:総務部広報課

【編集】2025年度放送大学学内広報委員会
委員長:生活と福祉／関根 紀子教授
副委員長:人間と文化／杉森 哲也教授
心理と教育／波田野 茂幸教授 社会と産業／桑田 学准教授
情報／森本 容介教授 自然と環境／隈部 正博教授
茨城学習センター／小野寺 淳所長 総務部／竹花 浩幸部長
学習センター支援室／佐藤 宏光室長
事務局:総務部広報課



『放送大学40年史』の刊行

昭和58(1983)4月に設立された放送大学は、2023年に40周年の節目を迎えた。これを記念し、放送大学40年史編纂委員会において、『放送大学40年史』の編纂作業を進めてきた。
『放送大学40年史』は2025年2月に刊行され、放送大学Webサイトにも掲載している。

右のQRコードから
アクセスしてください。



2024(令和6)年度放送大学学位記授与式

2025年3月22日(土)、2024(令和6)年度放送大学学位記授与式を、東京都新宿区ベルサール高田馬場において挙行了。2024年度の学部卒業生は6,301名、大学院修士課程修了生は202名、大学院博士後期課程修了生は4名であった。
卒業証書・学位記授与(教養学部卒業生総代柿下シナイさん、修士課程修了生総代大西真樹さん、博士後期課程修了生総代岡本吉光さんが壇上で受領)の後、岩永学長による式辞、武部新文部科学副大臣による祝辞、赤阪晋官総務省大臣官房審議官(情報流通行政局担当)による祝辞、北野敏夫放送大学同窓会連合会副会長による祝辞に続き、教養学部卒業生総代徳山瑠衣さん、修士課程修了生総代山本一輝さん、博士後期課程修了生総代高山琢磨さんによる謝辞があった。その後、教養学部全コースを卒業した155名の「放送大学名誉学生」の表彰、優れた教育活動を行った専任教員に与えられる「教育功績賞」の表彰、放送大学チャレンジ基金に対し多大な寄附をいただいた方への感謝状の贈呈が行われた。



内外激動の2024年

放送大学長 岩永 雅也



社会の著しい流動化とAI

数年来続いている世界各地での国家・地域間の軋轢と紛争が深刻さを増し、それらが否応なしに私たちの社会にも悪影響を及ぼしています。過度の温暖化や次々発生する新たな感染症など、私たちの住む地球環境も悪化の一途をたどっています。一方で、これまで高度に成熟していると思われていた民主主義社会の内部でも、社会の公正性・公平性、選挙と代議員制への信頼、情報の不偏性等々に対する疑念が日々高まり、社会の流動化が顕著です。

一方、そうした現状であっても、あるいはそのような状況下であるからこそ、人の知的活動の一部を代替する技術革新は加速度的に進展しています。中でも情報技術、とりわけAIの躍進はめざましく、昨年、平和賞を除くノーベル賞を受賞した研究の多くが分野を問わずAIに関わるものであったことは、まさにその象徴です。たしかに、AIは各分野での私たちの知的活動をより効率的にサポートしてくれます。基礎的な知的業務は、むしろAIに任せの方が確実に迅速な処理が期待できます。先頃、AIをアジアの象に喩えた研究者がいました。最初に象に遭遇した人はその大きさと力強さに圧倒され恐怖を感じますが、その力を評価し、利用する術を身に付けると、これほど便利なものはないと思ひ使い始めます。ところが、自らの意思を持つ象は、何かの弾みで思いもよらぬ暴走をすることがあり、そうなるともう人の手には負えません。彼は、AIもそうし

たものだということを理解した上で、過度に恐れず、過信することなく、絶えずチェックを怠らずに関わるべきだと主張しました。私たちのAIへのスタンスを定めるにあたって傾聴すべき主張だと思います。

次世代教育研究開発センターとIR室

本学の研究面では、今年度大きな出来事がありました。それは、次世代教育研究開発センター（以下、NERC）の設置です。NERCは、単なる研究支援組織ではなく、放送やオンライン科目のコンテンツに関する工夫、効率的科目・番組制作方法、効果的な学習方法、ラーニングコモンズ等の学習支援システム、そして学習効果の簡便な自己評価・管理システム等々、本学で実装しうるシステムや制作メソッド、拠って立つ理念やモデル等々の研究開発を支援し促進する組織です。すでに設置初年から活発な活動が展開しており、例えばインターネット試験（IBT）の厳格性を高めるシステムや、細分化された単位をバッジで認定するシステム、学習の自己管理システムなど、実装への道筋が見えつつある研究も出てきています。今後、本学の教

育システムをより効果的で魅力あるものにしていく上で、NERCの活動とその成果への期待は決して小さくありません。一方、全く同じ時期に立ち上げられた、大学における諸データの収集と分析を体系的に行うためのIR（Institutional Research）室ですが、現在、人材配置の後れもあって未だ本格的な活動状況には至っておりません。ただ、適切な大学運営とその評価が正確なデータに基づいて行われるべきであることは間違いのないところであり、来る次年度には研究開発を支援・促進するNERCとの連携・体制充実により、体系的なデータ収集と分析作業に全力で取り組めるものと確信します。

新たな学習者群への展開

これまで40年を超える本学の教育実践の中ではほとんど対応することができな



次世代教育研究開発センター

かったいくつかの学習者群があります。その一つが在外邦人です。海外在住者の中には、在外期間中に日本語で高等教育を受け、学士等の学位を取得したいという希望者も少なくありません。そうした方々に授業を提供し、本学の単位を取得してもらう、それが在外学生への授業配信プログラムです。放送授業のインターネット配信がほぼ全科目に及んだこと、そして単位認定試験が完全IBT化されたことで、実装への見通しが立ちました。何回かのモニター調査を経て、数年内に本格実施の予定です。二つ目は知的障害のある方々です。実は遠隔教育での継続学習を求めているそうした方々への教育は、これまで本学が行ってこなかったものです。今年度はそうした方々の求める学習を最も学びやすい方法で行うための実証研究を行い、コンテンツを制作して現場の評価もいただきました。今後の展開に期待大です。そして三つ目が現役高校生です。彼らに本学の現行科目からいくつかを選びそれらを学習してIBTも受験してもらうという「先取り学習」プログラムを実施して好評を得ました。今後、高校での新たな学習機会として制度化されていくことを期待しています。



先取り学習プログラム

【特集】2024年度の主な出来事

第1回OUJミュージアム企画展

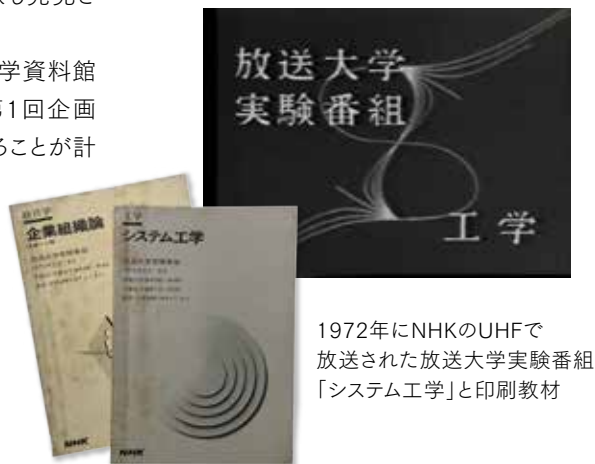
「放送大学はこうして生まれた～創生期の教材をみる～」

理事・副学長 近藤 智嗣

放送大学として放送授業が開始されたのは1985年4月のことである。当時から45分番組が15回と印刷教材を合わせて1科目が構成され、2単位が付与されている。さて、この形態は、いつ、どのように確立したのだろうか。この疑問の参考になる資料として、1972年にNHKのUHFで放送された「放送大学実験番組」がある。まだモノクロの番組だが、既に45分番組が15回と印刷教材で構成されている。印刷教材の判型も現在と同じA5判である。放送大学学園中期事業計画「計画23：大学の価値・認知度の向上」には、「大学の歴史的記録として重要な資料等の保存・公開を一層推進する」と掲げられている。これに基づき、2024年6月に放送大学資料館開設準備タスクフォースの下に試行的企画展示ワーキンググループ（以下、「WG」という。）が設置された。2024年9月、情報収集のため、このWGメンバーで愛宕山にあるNHK放送博物館を訪問した。その際、学芸員の方から先述の1972年の「放送大学実験番組」の台本を紹介され、この台本が現在も保管さ

れていたことが初めて分かった。もう1つ、開学前に放送大学の番組制作手法を検討する実験が行われた記録が、MME研究ノート(<https://ouj.repo.nii.ac.jp/records/512>, 第6号, 1984)に残っている。1983年に放送教育開発センター主催で開催された「映像表現の多様性」というシンポジウムの記録である。柳川啓一主任講師の「宗教理論と宗教史」というテレビ科目の一部を、同一トピックでありながら演出が異なる6種類の映像として制作し、視聴実験が行われたことの報告である。このたび、この6種類の映像も発見された。この2つの出来事から、放送大学資料館（通称：OUJミュージアム）の第1回企画展は、放送大学前史を展示することが計画され、2つの映像実験をメインに取り上げることとなった。このほか、1985年の本放送前には、アナウンサーが聞き手を務めたり、アナウンサーが番組の進行をしたりするなどの試行錯誤の映像も上映

することになった。展示には放送大学の番組で使われたスタジオセットも再利用され、放送大学らしさが演出された。放送大学の番組は開学前から、このような実験成果をもとに制作されている。つまり、放送大学の歴史自体が、生涯教育、視聴覚教育、遠隔教育といった学術分野における貴重な資料といえるのである。本企画展は、教職員を対象とした研修機会としても位置づけられ、2025年3月19日～5月30日まで東制作棟1階PRIMEにおいての学内限定公開である。



1972年にNHKのUHFで放送された放送大学実験番組「システム工学」と印刷教材

障害学生支援のバリアフリー化

副学長 林 徹

【これまでの状況】

本学の障害学生支援は、障がいに関する学生支援相談室と学生課障がい学生支援係（以下ではそれぞれ「相談室」、「支援係」とする）が本部機能を担いながら主導し支えている。一方、実際の合理的配慮に関する学生からの相談やその提供には、全国各地の学習センターが対応している。2018年からは、学習センターを直接支援するために、東京文京学習センターと大阪学習センターにカウンセラーが配置され、南関東・近畿両ブロックの学習センターの支援を担当した結果、両ブロックでの障害学習支援体制は大きく改

善した。しかし、両ブロック以外の学習センターは、幕張本部の支援係を通じて相談室に支援を求める必要があり、学習センターで対応しきれなくなった段階に至って初めて相談が寄せられることも少なくなかった。

【今年度の取り組み】

南関東・近畿両ブロックのカウンセラーも相談室に加わり、学習センター教職員の直面する課題状況を相談室がより直接的に把握することで、全国の事例を統合し対策を検討できるよう、相談室の対応能力を強化した。また、南関東・近畿両ブ

ロック以外の学習センター教職員も気軽に相談室に問い合わせができるように、また、支援係が本来の業務に集中できるように、相談室と直接コンタクトが取れる窓口アカウント(mado-soudan@ouj.ac.jp)を設けた。さらに、研修や相談会・連絡会に参加した学習センターや本部の教職員同士の交流が促進されるよう、実施の方法や回数を見直した。これらは、いわば支援体制自体をバリアフリー化する試みだったと言える。その結果、図1に示すように、相談室への相談回数は、今年度後半にかけて増加した。図2は同じ時期の南関東・近畿両ブロックの相談回数である。

図1には支援係で対応した相談が含まれていないため、同列に比較することはできないが、相談体制のバリアフリー化が進めば、相談室に直接寄せられる相談はさらに増えるはずである。今年度は他の通信制大学との連携も開始された。本学に次いで通信課程学生の多い京都芸術大学（約17,000名）、および日本で最も早く通信課程を設置した法政大学（1947年創設）と本年3月17日に連携のためのキックオフ会合を開き、共通する課題が多いことを確認することができた（図3）。

【今後の課題】

障害学生支援は一部の部署や専門家に任せておけばよいというわけにはいかない。全ての教職員が少しずつ係わることで、大学全体として社会的障壁を減らしていく必要がある。そのためには、今後次のような課題に取り組む必要があるだろう：事例集の作成（個人情報に配慮した具体的情報を含む事例集）、個人情報保護と情報共有の両立（特に集団守秘義務のためのルール作り）、基本的知識の普及（教職員が手軽に利用できるe-learningコンテンツ）。相談室と支援係の今後の取り組みへの理解・協力をぜひお願いしたい。

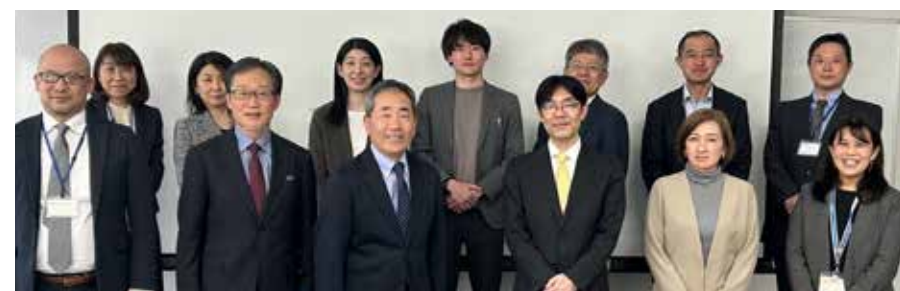


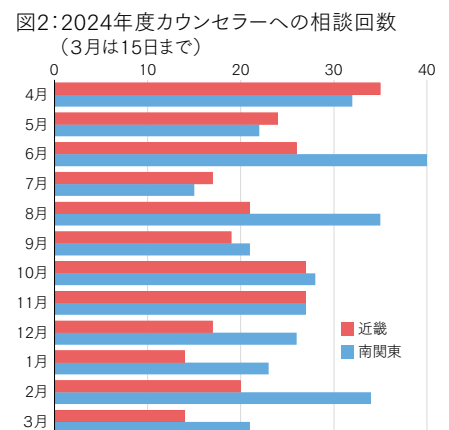
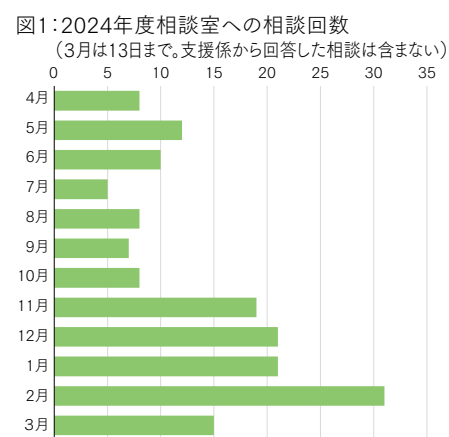
図3：京都芸大・法政大障害学生支援担当者とのキックオフ・ミーティング（2025年3月17日東京文京学習センターにて開催）

図書館の電子化と「もの」としての書物

附属図書館長 野崎 敬

「いつでも、だれでも、自由な学び方を」というのが、放送大学のキャッチフレーズであることはご存じのとおりである。そうした学びのための環境を学生に提供するうえで、附属図書館の果たす役割は決して小さくない。とりわけ近年は、電子ブック・電子ジャーナルを積極的に購入、収集することによって、学生が（もちろん教職員も）自宅にしながらしてアクセスできる文献資料の総体は急速に大きくなりつつある。漱石全集であれ、ケンブリッジ・ユニヴァーシティ・プレス刊の最新研究書であれ、たちどころに参照できることがどれほど便利であるかは、実際にリモートアクセスにログインしてみれば直ちに実感できる。また2013年に公開を開始して以来、本学機関リポジトリ(ManapiO)も着実にコンテンツを充実させている。附属図書館はいまや、サイバースペースにおける電子図

書館としての機能を十全に備えつつある。他方、約38万冊もの書籍が、知の拠点としての図書館にとって持つ意義はいささかも揺るがない。書庫には将来、その価値を新たに見出されるべき「もの」としての書物が多く並んでいる。一例をご紹介させていただこう。先般、閉架式書庫の片隅で一冊の本と出合った。19世紀フランスの文豪フローベールの代表作『ボヴァリー夫人』の原書だが、奥付を見ると1857年刊。なんと初版本である。しかも驚いたことに、著者の肖像や挿絵が入っている。フローベールは肖像、挿絵の類を決して自著に入れさせなかったことで知られている。これはいったいどういうことなのか？旧知のフローベール専門家、名古屋外国語大学准教授の木内堯先生に連絡を取ったところ、幕張まで出張鑑定にいらして下さった。その結果を木内先生がまとめた論文「イメージの誘惑—



学生に向けた教育

放送授業（テレビ・ラジオによる授業）



放送授業は、BSテレビ（231ch、232ch）またはBSラジオ（531ch）で受ける授業である。科目によってテレビ科目とラジオ科目に分かれており、BS放送やケーブルテレビなどを通じて、全国で放送されている。なお、学生専用サイト（システムWAKABA）では、全ての科目をインターネット上で配信しており、時間と場所を選ばずにパソコンやスマートフォンなどで視聴可能である。1コマ45分の授業が15コマで構成された2単位科目である。

2024年度は、学部288科目、大学院51科目の合計339科目を開設している。制作された放送授業は、原則として4年から6年間開講し放送するため、全開設科目の5分の1前後が毎年入れ替わる。2024年度の新規開設科目は、学部50科目（テレビ25科目、ラジオ25科目）、大学院3科目（ラジオ3科目）の合計53科目である。

2024年度 開設科目数			
	テレビ科目	ラジオ科目	計
学 部	169	119	288
大学院	5	46	51
計	174	165	339

2024年度新規開設科目（基盤科目）		
▶基盤科目	科目名	メディア
	心理と教育へのいざない（'24）	ラジオ
	身近な統計（'24）	テレビ
▶基盤科目（外国語）		
	フランス語Ⅰ（'24）	テレビ
	フランス語Ⅱ（'24）	ラジオ

2024年度新規開設科目（コース科目）		
▶生活と福祉		
導入科目	感染症と生体防御（'24）	ラジオ
	健康長寿のためのスポーツロジ（'24）	テレビ
専門科目	看護管理と医療安全（'24）	ラジオ
	基礎看護学（'24）	テレビ
	公衆衛生（'24）	ラジオ
	障害者の自立と制度（'24）	テレビ
	食と健康（'24）	テレビ
総合科目	グリーフサポートと死生学（'24）	ラジオ
	地域生活を支える社会福祉と法（'24）	ラジオ
	レジリエンスの科学（'24）	テレビ

▶心理と教育		
導入科目	心理学概論（'24）	テレビ
	テーマで学ぶ日本教育史（'24）	ラジオ
専門科目	イメージの力（'24）	テレビ
	学校と法（'24）	ラジオ
	コミュニティと教育（'24）	テレビ
	世界の学校（'24）	ラジオ

▶社会と産業		
導入科目	経営学入門（'24）	ラジオ
	社会統計学入門（'24）	ラジオ
専門科目	環境と持続可能な経済発展（'24）	ラジオ
	会計学（'24）	テレビ
	行政学講読（'24）	ラジオ
	現代アメリカの政治と社会（'24）	テレビ
	新興アジアの政治と経済（'24）	ラジオ
	都市と地域の社会学（'24）	ラジオ
	日本経済の比較史（'24）	テレビ
	ヨーロッパ政治史（'24）	ラジオ

▶人間と文化		
導入科目	多文化共生のコミュニケーション（'24）	ラジオ
	日本語教育学入門（'24）	テレビ*
	『枕草子』の世界（'24）	ラジオ
専門科目	アメリカ史：世界史の中で考える（'24）	テレビ
	原典で読む日本の思想（'24）	ラジオ
	西洋の美学・美術史（'24）	テレビ
	西アジアの歴史（'24）	ラジオ
	フィールドワークと民族誌（'24）	テレビ

▶情報		
専門科目	画像処理（'24）	ラジオ
	記号論理学（'24）	テレビ*
	コンピュータ通信概論（'24）	ラジオ
	情報化社会におけるメディア教育（'24）	ラジオ
	データ構造の基礎（'24）	テレビ
	データの分析と知識発見（'24）	テレビ
総合科目	情報社会と国際ボランティア活動（'24）	テレビ

▶自然と環境		
導入科目	初歩からの生物学（'24）	テレビ
	物理の世界（'24）	テレビ
	宮沢賢治と宇宙（'24）	テレビ
専門科目	解析入門（'24）	テレビ*

▶看護師資格取得に資する科目		
	成人看護学（'24）	ラジオ

大学院 2024年度新規開設科目		
▶人間発達科学		
	教育行政と学校経営（'24）	ラジオ
	教育心理学特論（'24）	ラジオ
▶情報学		
	要求工学（'24）	ラジオ

面接授業（スクーリング）

面接授業（スクーリング）は、学習センターなどで教員から直接指導を受ける授業であり、学友と共に学んだり、教員と交流を深めたりできる貴重な機会となっている。全国の学習センターとサテライトスペースで、年間約2,700クラスが開講されている。

面接授業は1科目1単位で、1時間30分の授業7回、45分の授業1回、計8回で構成されている。また、教室の中だけでなく、学習センター以外の場所です実習等を行う授業も開講している。2024年度は、2,541クラス（1学期1,254クラス、2学期1,287クラス）を開講した。



総合科目

平泉文化の国際性と地域性

講 師	佐藤 嘉広（岩手大学平泉文化研究センター・客員教授）
開講日	2024年10月19日（土）、20日（日）

【授業テーマ】

- 第1回 平泉世界遺産ガイドランスセンターにおいて平泉文化の概要を学び、政庁の遺跡を見学
- 第2回 中尊寺と平等院を模して造営された無量光院跡を見学
- 第3回 浄土庭園を持つ寺院として有名な毛越寺とそれに隣接し同じく浄土庭園を持つ観自在王院跡を見学
- 第4回 今日に残る平泉が世界遺産として評価された理由と将来に向けた課題
- 第5回 平泉にいたる東北地方の歴史と奥州藤原氏が勢力をもった背景
- 第6回 12世紀における平泉の歴史を概観
- 第7回 遺跡の発掘調査成果など、考古学の成果からみる平泉
- 第8回 まとめ～平泉が語りかけるもの～

今回の面接授業には県内はもとより全国各地から24名の学生さんが参加しました。

1日目は平泉を訪れ、12世紀に奥州藤原氏が築いた平泉文化を象徴する遺産を見学しました。浄土を表す建築や庭園を見学し、平泉が世界遺産登録された理由と登録までの道のり、また、今後それら価値ある遺産をどのように保全していくかなどについて学びました。中尊寺をはじめ、平泉世界遺産ガイドランスセンター、柳之御所遺跡、無量光院跡、毛越寺、観自在王院跡を見学しましたが、最後まで熱心に先生の説明に耳を傾け、積極的に質問されていた学生さん達の姿が大変印象的でした。

2日目は学習センターにおいて座学授業を実施しましたが、1日目にかなり歩いたにも関わらず、疲れなどものともしない皆さんの熱意に頭が下がる思いでした。

「現地で説明を聞きながらじっくり見学ができてよかった」「平泉の歴史について深く知り、ますます興味が湧いた」「現地見学の後に講義がありイメージしやすかった」等の声が寄せられました。

実際に平泉に赴き、先生の説明を聞きながら世界遺産平泉を体感できたことは大変貴重な経験であり、これからの平泉にもより関心が高まるきっかけとなった授業でした。





授業紹介

佐賀
学習センター

専門科目：人間と文化

軍事都市「肥前名護屋」を探る

講 師	宮武 正登(佐賀大学教授)
開講日	2024年10月26日(土)、27日(日)
場 所	佐賀県波戸岬少年自然の家、 特別史跡「名護屋城跡」、 佐賀県立名護屋城博物館



【授業テーマ】

- 第1回 真説・朝鮮出兵No.1(実施会場：波戸岬少年自然の家)
- 第2回 真説・朝鮮出兵No.2(実施会場：波戸岬少年自然の家)
- 第3回 巨大軍事基地「肥前名護屋」の構成ー大名陣所の集合体ー(実施会場：波戸岬少年自然の家)
- 第4回 フィールド・スタディーNo.1 大名陣跡の踏査ー真田昌幸陣・蒲生氏郷陣・足利義昭陣などー
- 第5回 秀吉の巨城・名護屋城の実態(実施会場：波戸岬少年自然の家)
- 第6回 城下町の発生とその景観(実施会場：波戸岬少年自然の家)
- 第7回 フィールド・スタディーNo.2 特別史跡「名護屋城跡」見学
- 第8回 フィールド・スタディーNo.3 佐賀県立名護屋城博物館見学

中国・朝鮮半島侵略をもくろんだ豊臣秀吉は、この地に名護屋城を築いて出兵基地とし、文禄・慶長の役(壬辰・丁酉倭乱 1592～98)を起こしました。この戦争の舞台となった名護屋城跡と、参集した全国の大名の陣跡は「名護屋城跡並陣跡」として国の特別史跡に指定されているこの地が今回のフィールドでした。

「文禄・慶長の役」の際の本営として豊臣秀吉が整備した肥前名護屋は、史上最大の軍事基地であり、莫大な兵站物資の集積地として都市的繁栄を遂げ、一時期は国政の中枢をも兼ねました。この授業では実際にその現地(唐津市鎮西町)に赴き、歴史の舞台に立って往時の遺構を目の前にしながら朝鮮出兵の実態を探っていきます。

フィールドは佐賀学習センターから離れた県の最北西端で、会場はアクセスが朝夕数本だけの路線という自然の中にある波戸岬の少年宿泊施設での開催のため、自宅通学者以外は前日からの宿泊形態の面接授業です。夜になると自然と談話室に参集し、この広大な遺跡についての自発的な事前学習が始まり熱を帯びた学習は就寝時間まで続き、翌日からの大名陣跡の踏査や名護屋城跡・名護屋城博物館見学を通し、朝鮮出兵の経過・概要とあわせて、名護屋城・大名陣所・城下町から構成される巨大軍事基地「名護屋」の特徴について理解を深めました。本営、肥前名護屋城に九州各県・関西・関東から馳せ参じた武将はこの講義で得た恩賞を胸に各地への帰路に就きました。



授業紹介

大分
学習センター

導入科目：自然と環境

大分の水と温泉

講 師	大上 和敏(大分大学教授)
開講日	2024年12月14日(土)、 15日(日)



【授業テーマ】

- 第1回 地球の水循環(1)地球上の水の循環
- 第2回 地球の水循環(2)地球の水資源量
- 第3回 大分の水(1)大分県の自然科学的条件
- 第4回 大分の水(2)大分県の主な水域について
- 第5回 大分の温泉(1)温泉の定義と分類
- 第6回 大分の温泉(2)温泉の成因と大分県の温泉について
- 第7回 温泉の巡検(1)血の池地獄、龍巻地獄、海地獄
- 第8回 温泉の巡検(2)鬼石坊主地獄、白池地獄、かまど地獄、鬼山地獄

大分県は、標高2000m 近くの山岳地帯や、県北、県南地域の沿岸地帯、そして湯布院、別府などの有数な地熱・温泉地帯を有しており、自然環境豊かな条件にあります。大分県の温泉の源泉数は、全国の総源泉数の18%以上にあたり、温泉水の含有成分によって分類される泉質についても、11種類中10種類の温泉が湧出しています。

面接授業の1日目は、前半に地球全体の水循環や、我々が利用可能な水資源量、水質の定義や溶存化学成分の起源、大分県の水環境について学んで頂き、後半では、温泉の定義や分類など、温泉に関する基本的事項に関する理解を深めて頂きました。2日目の午前中は、大分県内の温泉の分布状況、特徴的な色彩を呈する温泉の発色する理由、噴出と停止を繰り返す間欠泉のメカニズムなど、様々な温泉現象についての説明を行いました。午後からは、これまでに学んで頂いた様々な温泉現象について、別府地獄の巡検に行く事により、「血の池地獄」、「海地獄」のように特徴的な色を呈する温泉湖沼や、「龍巻地獄」の間欠泉を実際に見て頂き、温泉についてより関心を高めて頂きました。

オンライン授業

オンライン授業は、インターネットに接続されたパソコンなどを使い講義を視聴し、学習活動や成績評価の課題(選択式問題、レポート、ディスカッション等)に取り組む授業である。1単位(8コマ)の科目と、2単位(15コマ)の科目があり、1コマあたり、講義が45分程度と学習活動が45分程度を合わせた90分程度である。成績評価は課題により行うため、通信指導や単位認定試験はなく(一部科目は単位認定試験を実施)、自宅や職場

などインターネット環境があれば、場所や時間に縛られることなく自分のペースで学ぶことができる。

2024年度1学期は、2023年度に制作された教養学部6科目と大学院修士課程4科目を新規開講した。また、2025年度1学期開講の教養学部10科目と大学院修士課程5科目が新規制作された。

2024年度教養学部 新規開設科目

コース	科目名	単位数
心理と教育	専門科目 特別支援教育基礎論('24)	2
社会と産業	導入科目 共生のための技術者倫理('24)	2
	専門科目 官民の人的資源論('24)	1
	総合科目 開発経済学:アジア社会の変容('24)	2
情報	導入科目 プログラミング入門Python('24)	1
自然と環境	専門科目 量子物理演習('24)	2

2024年度大学院修士課程 新規開設科目

プログラム	科目名	単位数
生活健康科学	生活空間情報の表現とGIS('24)	1
	社会福祉の探究('24)	2
	コミュニティケア('24)	2
情報学	eラーニングの理論と実践('24)	2

オンライン授業科目数推移

	2016		2017		2018	2019		2020	2021	2022		2023		2024
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	1学期	2学期	1学期	1学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期
制作科目数 (コマ数)	13 (160)		12 (159)		10 (136)	14 (129)		12 (109)	9 (114)	9 (100)		10 (126)		15 (155)
運用科目数	10	13	20	26	38	48	50	61	72	75	78	82	82	88

ライブWeb授業

2021年度に「同時双方向Web授業」としてスタートした本授業形態は、2022年度以降、「ライブWeb授業」と名称を改めた。「ライブWeb授業」は、Web会議システム(Zoom)を利用した授業と、オンライン授業の利点を活かした授業形態である。学生は学習センターではなく、自宅等でPC等を用いて受講する。授業当日は、専用のシステムにログインし、各回の仮想の講義室(Zoomミーティング)へ入室した上で授業を受講する。また授業によっては学生同士のグループワークを行うこともある。また、講義資料や講師からのお知らせ、後日提出が必要なレポート等、講義時間外に取組みや確認が必要な活動が当該システム上で示

される場合がある。

2021年度第2学期に9科目を開講した本授業形態は、2024年1学期には69科目を開講。学習センター開催のライブWeb授業を全国の学生が自宅から受けることができることも魅力のひとつで、学生のニーズも開講数も年々増加している。

ライブWeb授業科目数推移

	2022	2023		2024	
	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
開講科目数	14	31	42	69	88

科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）



「科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）」は、本学が2006年から実施している学習プログラム（履修証明プログラム）で、学校教育法第105条「履修証明制度」に対応している。本学が指定する特定の授業科目群17プランに沿って専門分野を体系的に学び申請することで、修了者には法に基づく認証状と証明書のほか、希望者には携帯できる認証カードが交付される。履歴書への記載や、博物館などボランティア活動に役立つ。2025年1月31日までの累計認証取得件数は35,282件である。

学校教育法第105条「履修証明制度」とは…

社会人などを対象とした、2007年に始まった新しい履修・学習の証明制度。大学などが開設した一定のまとまりある学習プログラム（履修証明プログラム）の修了者に対して、大学などが法に基づく「履修証明書」（certificate）を交付できる制度（詳細は文部科学省のホームページを参照：https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shoumei/）である。

2024年度認証プランと認証状取得者数（2025年1月31日現在）		
認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	3,112
福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	3,179
社会生活企画プラン	社会生活プランナー	1,605
心理学基礎プラン	心理学基礎	4,959
臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	2,971
異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	1,479
宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	940
環境科学プラン	環境科学の基礎	911
芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	1,545
歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,788
自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	835
工学基礎プラン	工学基礎	503
地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	763
日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成	360
学校地域連携コーディネータープラン	学校地域連携コーディネーター	282
データサイエンスリテラシープラン	データサイエンス・リテラシー	535
データサイエンスアドバンスプラン	データサイエンス応用基礎	290
社会探究プラン※①	現代社会の探究	720
次世代育成支援プラン※①	次世代育成支援	1,351
生命科学プラン※①	生命人間科学	972
社会数学プラン※①	数学と社会	535
食と健康アドバイザープラン※②	食と健康アドバイザー	979
人にやさしいメディアデザインプラン※②	人にやさしいメディアのデザイン	222
データサイエンスプラン※②	データサイエンス	188
市民活動支援プラン※③	市民政策論	767
日本の文化・社会探究プラン※③	日本の文化と社会	773
計算機科学基礎プラン※③	計算機科学の基礎	470
実践経営学プラン※④	経営の理解	647
ものづくり MOT プラン※④	ものづくりと MOT(技術経営)を学ぶ	397
コミュニティ学習支援プラン※④	地域生涯学習支援	342
アジア研究プラン※④	アジア研究	522
エネルギー・環境研究プラン※④	エネルギー環境政策論	340
		35,282

※①がつくプランは、2021年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2026年3月31日まで申請が可能です。
※②がつくプランは、2022年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2027年3月31日まで申請が可能です。
※③がつくプランは、2023年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2028年3月31日まで申請が可能です。
※④がつくプランは、2019年3月31日をもって廃止し、経過措置が2024年3月31日で終了しました。

寄附科目

本学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2024年度には、1科目の寄附科目を放送した。

2024年度開設寄附科目		
科目名	寄附団体名	メディア
著作権法（'22）	日本音楽著作権協会（JASRAC）	ラジオ

キャリアアップ支援【資格取得】

教員

本学では、現職教員が教育職員検定により、上位や他教科等の教員免許状を取得しようとする際に必要な科目の一部又は全部を履修することができる。

- ▶ 上位・他教科・隣接校種の教員免許状
- ▶ 特別支援学校教諭免許状（知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域）
- ▶ 養護教諭の上位の免許状
- ▶ 栄養教諭免許状
- ▶ 学校図書館司書教諭資格



看護師

准看護師として7年以上の就業経験を有し、看護師学校養成所2年課程（通信制）に入学して、68単位以上を修得して卒業すると、看護師国家試験を受験することができる。その際、放送大学で修得した単位を各養成所の判断により、総修得単位の2分の1を超えない範囲で当該養成所において修得したものとして認定を受けることができる。

また、放送大学大学院では、看護師の特定行為研修科目のうち、共通科目（講義・演習部分）をオンライン授業として全国の看護師に科目を提供している。なお、2025年1月現在、本学は指定研修機関35機関の協力施設となっている。

- ▶ 看護師国家試験受験資格
- ▶ 看護師の特定行為研修制度対応科目



心理学

本学で人気のある心理学は、科目が豊富で、生活や仕事に役立つ知識を得られるだけでなく、資格取得を目指すことも可能である。

日本心理学会が認定する「認定心理士」は、心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術を正規の課程において修得していることを認定する資格である。心理職を目指す人には大切な第一歩であり、本学ではこれまでに15,400人以上が資格申請を行っている。

また、臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて心理的な問題を取り扱う「臨床心理士」は、内閣府の認可する公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定し、公立学校スクールカウンセラーの資格要件になるなど、公的にも認められている。本学大学院は、受験資格を得るために同協会が指定する大学院（2種）で、修士全科生として臨床心理学プログラムを修了し、修了後合計1年以上の心理臨床実務経験を積んだ後に受験可能になる。2024年度の本学での臨床心理士資格審査の合格率は、73.0%であった。

「公認心理師」は2015年に成立した「公認心理師法」に基づく、心理職初の国家資格である。本学では、2019年度より学部段階における公認心理師カリキュラムを開設した。なお、対応科目のうち「心理演習」と「心理実習」の2科目を受講するためには選考試験に合格する必要がある（受講者定員は全体で30名。2025年度「心理演習」「心理実習」受講のための選考試験の出願倍率は18.0倍）。※本学では大学院段階のカリキュラムには対応していない。

- ▶ 認定心理士
- ▶ 臨床心理士受験資格
- ▶ 公認心理師受験資格（学部段階）

本学で修得した単位は、その他以下の資格取得等のために活用することができる。

- ▶ 学芸員資格
- ▶ 社会教育主事任用資格
- ▶ 社会教育士
- ▶ 社会福祉主事任用資格
- ▶ 介護教員講習会の対応科目



障がいのある学生への修学支援

本学では、障がいのある方に障がいの特性等に応じた様々な修学支援を行っている。

視覚障がい等により印刷教材を読むことが困難な方への支援として、希望者には印刷教材のテキストデータを提供している。

また、国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスへの上記テキストデータの提供を行っており、2023年度からは同テキストデイジーデータ、2024年度からはマルチメディアデイジーデータの提供も開始した。

一方、聴覚障がい等がある学生への支援としては、テレビ授業

科目、オンライン授業科目や特別講義における字幕挿入を行っている。また、インターネット配信では、一部のラジオ科目でも字幕視聴が可能になっている。

さらに単位認定試験では、Web単位認定試験において、障がいがあることによりWeb画面操作が困難である方、読み上げ機能を使用する方等に試験時間の延長を認めた他、Web受験ができない方については、これまでと同様に学習センターに來所していただき、音声問題や点字問題による出題や、別室や希望座席での受験を認める等の配慮も実施した。

学生の研究成果の公開

本学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度から、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。2024年度も2023年度履修者の中から、各コースで選ばれた卒業研究報告者について、システムWAKABAで公開した。

大学院については、在学生や今後の入学者への情報提供のほか、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的とし、修士論文を基にした学生論文集「OpenForum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年度から2021年3月刊行の第17号まで冊子体で刊行した。

2020年度修了生からは、各プログラムで選ばれた修士論文について、システムWAKABAでの公開を開始している。

一方、従来「OpenForum」が担っていた学外への発信機能を引き継ぎ、さらに強化することを目的として、2022年3月には教員有志によるオンラインジャーナル「放送大学文化科学研究(The OUJ Journal of Arts and Sciences)」を創刊し、ホームページ(<https://oujjas.com>)での公開を開始した。オンライン化によって在学生に限らず誰からも閲覧可能となっただけでなく、同時に行われたページ制限の緩和によって掲載論文の内容はより充実したものとなっている。また、創刊に当たっては新たに設置された博士後期課程の在籍者・修了者にも門戸を開いたが、2025年2月刊行の第4巻には博士課程研究論文4件を含む計34件の論文が掲載され、従来の学生論文集の枠を超える高度な内容を持つに至っている。



放送大学
マスコットキャラクター
まなびー®

社会に向けた教育

生涯学習支援番組

本学は、人生100年時代における社会人の多様な学び直しのニーズに応え、実践的な知の基礎や職業的能力の向上に資する内容によって「学び直し」のきっかけを提供する、生涯学習支

援番組を2018年から放送している。

2024年度は、新規48番組を含む、590番組の生涯学習支援番組を放送した。

2024年度の新規放送番組

16番目の授業	太陽と太陽系の科学 第1回 はやぶさ2・世界初の技術への挑戦 太陽と太陽系の科学 第2回 小惑星リュウグウのサンプルが語ること	数理・データサイエンス・AI講座 言語生成AIの機能と社会への応用 ～技術編～ 言語生成AIの機能と社会への応用 ～応用編～
“科学”からの招待状	生命にまつわる“常識”を疑う!? 第3回 対談編・新たな“常識”を探る 空間と時間 ～物理学の歴史を通して～ 第1回 人は測り始めた空間と時間 ～物理学の歴史を通して～ 第2回 電磁気学の革新 空間と時間 ～物理学の歴史を通して～ 第3回 現代物理学で見てきた世界 福澤諭吉の物理学への夢	放送大学クラシックス 宇宙からの手紙～隕石～('93) 集合住宅と住生活の展開('88) 新しいものはどのようにして普及するのか('89) 地球磁場とその役割('90) 外国語への招待 タイ語('90) 外国語への招待 スワヒリ語('90) 教育の国際化('91) 道の文化史 第1回 近世街道の成立('91) 道の文化史 第2回 庶民の旅('91) 分子間力('91) わたしの学問研究 ヨーロッパにおける「市民」の成立('91) ゲートと近代生物学('92) 隣近所と日本人('92) わたしの学問研究 久野収・哲学者として生きた昭和 [90分版]('92) 外国語への招待 マレーシア語('92) 数学研究の諸相 第1回('95) 数学研究の諸相 第2回('95) 日本の近代建築(95) 絵巻を旅する('96) 医療人類学と女性('97) 男性支配の象徴性('94) わたしの学問研究 梅棹忠夫・国立民族学博物館の20年('95) わたしの学問研究 梅棹忠夫・文明論('95) 私の俳句人生 ～17文字に寄せる思い～ 第一回 稲畑汀子('99)
BSキャンパスex特集	考古・歴史・文化の今昔～蘇る「兼高かおる世界の旅」と共に～ ネパール編 前編 ヒマラヤの王国 考古・歴史・文化の今昔～蘇る「兼高かおる世界の旅」と共に～ ネパール編 後編 八百万の神の都 情報をデザインする ～デザインミュージアムへの広がり～ 身心一体科学 前編 和の様式における場の力と 細胞・ロボットの非言語コミュニケーションの相似 身心一体科学 後編 身体と身の融合 わが国における商法の歴史・沿革 人生110年時代を目指す ～筋力トレーニングの生理学と自宅でできる実践法～ 第1回 人生110年時代を目指す ～筋力トレーニングの生理学と自宅でできる実践法～ 第2回 考古・歴史・文化の今昔～蘇る「兼高かおる世界の旅」と共に～ ブラジル編 前編 気分は神様 考古・歴史・文化の今昔～蘇る「兼高かおる世界の旅」と共に～ ブラジル編 後編 アマゾン50年 自分の学習を設計する オーラル・ヒストリーへのいざない 第4回「オーラル・ヒストリー」の現在地 オーラル・ヒストリーへのいざない 第5回「オーラル・ヒストリー」を使う 役割語と日本語の近代 放送大学教材を用いた先取り学習の可能性 ～千葉県立長生高校の挑戦～	



▶BSキャンパスex 特集身心一体科学(前編／後編)

「身心一体科学」～身体を正しく動かすことで、心との連動がはかれている、という跡見順子教授の考え方を学ぶ。跡見先生は、分子生物学の研究を重ね、分子シャペロンを発見、細胞間のコミュニケーションに着目してきた。前半は鼎談、後編では日本人が祖先から受け継いで来た体の動かし方から、身体(しんたい)と身(み)の融合について語りあう。



▶スペシャル講演『役割語』が切り開く、言語の地平

日本語の存在表現は「いる」「ある」「おる」の三語を中心に形成されている。この存在表現の意味構造について、金水 敏大阪学習センター所長は広く言語学的方法や認知科学的方法を取り入れることで論理的に構築。その歴史を通史的に描いた。そして今回、金水所長は自身が提唱する「役割語」の概念について講演。その発達について小説やマンガなどとの関連をふまえつつ、言語学、社会学、社会心理学等の知見を援用しつつ解説する。

キャリアアップ支援認証制度

体系的に編成された講座を修了した方に対して、放送大学が独自の認証状を発行する「キャリアアップ支援認証制度」を実施している。本制度は、様々なニーズに応え受講者のキャリアアップに資する講座を柔軟な仕組みで提供するものであり、

本学学生でなくても受講できる。また、修了者には、認証状の他、デジタルバッジを発行する。2024年度には、より柔軟な受講が可能となるよう、一部の講座において1コマからの受講を可能とする仕組みを整備した。

インターネット配信公開講座

本学のキャリアアップ支援認証制度に係る有料講座及び一部の生涯学習支援番組からなる無料講座をインターネットで配信する「インターネット配信公開講座」を2020年度に開始した。2024年度においてはキャリアアップ支援認証制度対象の99講座(有料)、無料配信の98講座を配信した。



単位互換の取り組み

本学は、「他大学との単位互換の推進により、わが国の大学教育の改善に資すること」を設置目的の一つに掲げている。本学と単位互換協定を締結している大学及び短期大学は417大学あり、日本国内の全大学・短期大学の約37%にのぼる。さらに15大学院、17校の高等専門学校とも単位互換協定を締結しており(2025年3月31日現在)、大学等から受け入れる学生数は年間で約4,000名(延べ約7,000科目)に達する。

を行うことも必要」と記載されたことを受け、国から単位互換制度の運用に係る基本的な考え方が示された。本学では、基本的な考え方に則り単位互換を推進することによって、多様で柔軟な教育プログラムの編成(文理横断・学修の幅を広げる教育等)や大学の多様な「強み」の強化など、わが国の大学等の教育課程の充実に寄与している。

2024年度には、新たに3校の大学等と単位互換協定を締結し、協定締結校は合計449校となった。

2024年度に締結した単位互換協定締結校		
東京医療保健大学	静岡文化芸術大学	
高知健康科学大学		

専修学校との連携協力

本学では、専修学校との連携協力として、専修学校に在学しながら本学にも入学し、本学の科目を併修する制度を実施している。時間と場所を問わずに学ぶことのできる本学の特徴を活かし、専修学校での学習と組み合わせて学べ、本学卒業により学士(教養)の学位を取得することが可能である。

2024年度には、新たに8校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、連携協力校は合計72校となった。

2024年度に締結した連携協力校(専修学校)		
関西総合リハビリテーション専門学校	平成淡路看護専門学校	
神戸総合医療専門学校	日本国際工科専門学校	
報徳看護専門学校	獨協医科大学附属看護専門学校	
姫路ハーベスト医療福祉専門学校	京都府立看護学校	

特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っており、テレビ特別講義は生涯学習支援番組のシリーズの1つとしてBS231チャンネルで放送している。

2024年度放送の特別講義			
講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア	
風狂を生きる精神 ～一休・蕭白からアラーキーまで～	恵泉女学園大学非常勤講師、詩人 林 浩平	テレビ	
『おくのほそ道』の真髄 ～芭蕉自筆本に基づく新研究～	放送大学特任教授 魚住 孝至	テレビ	
笑いの哲学 ～コントで分析～	日本笑い学会会長、関西大学人間健康学部教授 森下 伸也	テレビ	
年縞が語る地球環境史	国際日本文化研究センター名誉教授・ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜恵	テレビ	
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会～東京藝術大学奏楽堂～	千葉大学教授・作曲家 山本 純ノ介 横浜国立大学名誉教授 茂木 一衛	テレビ	
共に生きる社会を目指して ～「医療的ケア児」をどう支えるのか～	ひばりクリニック院長・NPO法人うりずん理事長 高橋 昭彦	テレビ	
気仙沼ESDの軌跡:持続可能な社会の創造をめざして	奈良教育大学准教授 及川 幸彦	テレビ	
摩擦の世界	青山学院大学教授 松川 宏 筑波大学准教授 氏家 恒太郎 東京大学生産技術研究所教授 川勝 英樹	テレビ	
ブラックホール ーばく大なエネルギーの発生源ー	東京大学教授 牧島 一夫 東京大学特別荣誉教授 梶田 隆章 放送大学茨城学習センター元所長 横沢 正芳	テレビ	
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅰ 私が感化された教育とは	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別荣誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	テレビ	
ノーベル賞科学者の軌跡Ⅱ どう鍛えられ研究を深めたか	名古屋大学特別教授・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長 益川 敏英 東京大学特別荣誉教授・東京大学宇宙線研究所長 梶田 隆章	テレビ	
微生物が作る究極の薬を求めて 大村智博士が語るノーベル賞への歩み	北里大学特別荣誉教授 大村 智 女優、科学番組プログラム アシスタント 黒田 有彩	テレビ	
分子の履歴を読み解く ～地球環境の指標・アイソトポマー～	東京工業大学地球生命研究所 特任教授 吉田 尚弘 フリーアナウンサー 岩田 まこ都	テレビ	
身心一体科学からの健康寿命延伸 ～日本文化を先端科学につなぐ～	東京大学名誉教授 跡見 順子 能楽師 森 常好 フリーアナウンサー 高松 祥子	テレビ	
手本をはなれて ～“想画”を生んだ奥出雲の地から～	前島根学習センター所長 佐々 有生 農業 青木 宗一 声優、ナレーター 加藤 沙織 声優 宮林 康 声優 青木 強	テレビ	
レゲット教授が見た日本 ～ノーベル賞科学者による異文化交流～	イリノイ大学名誉教授 アンソニー・レゲット 放送大学特任教授 松井 哲男 京都大学名誉教授 佐藤 文隆 前東京大学教授 福山 寛 アナウンサー 青谷 優子	テレビ	
通信教育で人生が変わった ～女優・作家 中江有里～	女優・作家 中江 有里	ラジオ	
箏曲の世界 ～宮城道雄の残したもの～	元東京藝術大学教授・学術博士 安藤 政輝	ラジオ	
編集者漱石 ①編集者子規	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 東京大学名誉教授 草光 俊雄	ラジオ	
編集者漱石 ②朝日新聞の時代	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 東京大学名誉教授 草光 俊雄	ラジオ	
研究不正と研究倫理	放送大学特任教授 児玉 晴男	ラジオ	
DV被害者の声～求められる支援のありかたとは～	愛知県立大学名誉教授 須藤 八千代	ラジオ	
病・人・社会(1)～統合失調症が教えること～	東洋大学名誉教授 白石 弘巳	ラジオ	
病・人・社会(2)～人を支援する人が受け取るもの～	東洋大学名誉教授 白石 弘巳	ラジオ	
困ったら、頼っていいんだよ ～孤立する子どもたちに私たちができること～	NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵	ラジオ	
医療・健康で地域をつなぐ	帝京大学教授 佐藤 真治	ラジオ	
現代社会におけるイノベーションの意味	元早稲田大学大学院教授 吉川 智教	ラジオ	
終活学 満足して人生を終える	関西国際大学客員教授 長尾 和宏	ラジオ	

2024年度放送の特別講義		
講義題目名	出演講師 ＊開設当時の肩書	メディア
江戸農書からみる現代農業と日本社会	大阪経済大学学長 徳永 光俊	ラジオ
科学は文化だ	日本科学未来館 広報・普及課長 富田 知宏	ラジオ
—科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会—	放送大学教授 奈良 由美子	
	文部科学省人材政策課課長補佐 石橋 一郎	
天文学を魅力的に伝えたい	国立天文台准教授 縣 秀彦	ラジオ
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	放送大学名誉教授 黒須 正明	ラジオ
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋	ラジオ
脳と心—分子生物学者がみた精神医学—	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	ラジオ
①部品の科学と全体としての脳		ラジオ
脳と心—分子生物学者がみた精神医学—	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	ラジオ
②家族の旅から回復を体験すること		
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	健康社会学者・文藝家 河合 薫 ラッシュジャパン人事部長 安田 雅彦	ラジオ
脳脊髄液減少症と児童・生徒	国際医療福祉大学熱海病院教授 篠永 正道	ラジオ
「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	東京科学大学地球生命研究所 特命教授 丸山 茂徳 放送大学プロデューサー 高比良 一道	ラジオ

一般向け講演会

本学で培われた教育・研究成果が広く社会に提供されることで、大学と社会相互のさらなる発展が期待される。本学は、主に全国の学習センターを通じて、一般市民を対象とした公開講演会等を開催し、その知識を社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。

2024年度公開講演会					
所属	講師	テーマ	主催、共催等	方式	開催年月日
生活と福祉	朝倉 富子	食と健康 ～高齢社会の「食」を栄養と思考から見つめる～	東京文京SC/広報課	Web	2024年8月3日
	井出 訓	ジブングトとしての認知症 ～原因、予防、共生～	北海道SC/広報課	Web	2024年7月13日
心理と教育	岩崎 久美子	大人が学ぶ理由 ～心理と教育へのいざない～	千葉SC/広報課	Web	2024年6月15日
	岩永 雅也	日本の生涯学習と放送大学～生涯学習の現状と課題～	放送大学神奈川サークル協議会	対面	2024年9月1日
		日本の生涯学習と放送大学～学習社会の現状と課題～	放送大学研究発表会実行委員会 北海道SC	対面とWeb併用	2024年11月2日
		日本の生涯学習と放送大学～義務でも権利でもない学びの世界～	大分SC	対面	2024年11月16日
		日本の生涯学習と放送大学～生涯学習の現状と課題～	岐阜SC	対面	2024年11月23日
		日本の生涯学習と放送大学～義務でも権利でもない学びの世界～	高知SC	対面	2024年12月7日
		「学びで世界が変わる～佐賀と豊かな人生～」	佐賀SC（公財）佐賀県女性と生涯学習財団	対面	2024年12月21日
	大山 泰宏	アンパンマンで読み解くこころの発達	奈良SC	対面	2024年7月28日
	丸山 広人	心を使って考えるということ	茨城SC 茨城県立図書館	対面	2024年10月19日
	森 津太子	認知バイアスと心の健康	岐阜SC 岐阜県図書館	対面	2024年8月3日
	社会と産業	北川 由紀彦	ホームレス問題から考える日本の貧困問題（午前の部）	兵庫SC/コミスタこうべ	対面
ホームレス問題から考える日本の貧困問題（午後の部）			兵庫SC/コミスタこうべ	対面	2025年1月24日
町内会ってなんだろう？ ～社会学の視点から～			東京文京SC/広報課	対面とWeb併用	2025年2月1日
白鳥 潤一郎		激動の国際情勢と「資源小国」日本	高知SC	対面	2024年6月15日
人間と文化	野崎 欽	映画を学ぶ7つの理由 ～映画芸術への招待～	東京渋谷SC/広報課	対面とWeb併用	2025年2月15日
情報	大西 仁	みんなのデータサイエンス	東京渋谷SC/広報課	Web	2024年7月27日
	加藤 浩	数理・データサイエンス・AI教育の高まりと放送大学の取り組み	広島SC	対面	2024年6月23日
	近藤 智嗣	ミクストリアリティでよみがえる恐竜体験			
		～ミクストリアリティ技術の博物館展示・教育への応用～	高知SC 高知県立図書館/高知市教育委員会	対面	2024年5月3日
	辰己 丈夫	生成AIを教員はどう使うべきか -高等教育と初等中等教育での事例と考察-	福岡SC/日本工学会アカデミー九州支部 九州工学教育協会/ （公財）九州先端科学技術研究所	対面	2024年10月30日
北海道SC	山田 義裕	ネット社会のくわたりとは何処にー拡張現実時代の自伝的記憶の拠り所ー	北海道SC	対面とWeb併用	2024年8月31日
青森SC	石川 善朗	青森県の伝統工芸品ー全国の工芸品と比較してー	青森SC	対面	2024年10月26日
		青森県の伝統工芸品ー全国の工芸品と比較してー	青森SC	対面	2024年11月2日
岩手SC	西崎 滋	西崎所長最終講義「ミクロの世界に魅せられて!」	岩手SC	対面	2025年3月8日

2024年度公開講演会					
所属	講師	テーマ	主催、共催等	方式	開催年月日
茨城SC	小野寺 淳	北関東の農村荒廃を救った人々	茨城SC 茨城県立図書館	対面	2024年4月20日
東京渋谷SC	山室 恭子	権現様と犬公方～ふたりの名将軍～	東京渋谷SC/大田区	対面とWeb併用	2024年7月28日
新潟SC	大原 謙一	宇宙は無重力？ ～宇宙を観測する新しい目と耳～	新潟SC 佐渡市教育委員会	対面	2024年7月2日
長野SC	大塚 勉	地震の災害はどうしておこるの？身近な地形と地質が危ない！	長野SC/諏訪市教育委員会	対面	2024年11月23日
奈良SC	井上 容子	光が生み出す安全で快適な生活 ～視覚特性を生かした動的視環境計画～	奈良SC	対面	2025年3月8日
		チーズを知れば、もっと美味くなる	鳥取SC	対面	2024年4月21日
		お茶を知れば、もっと美味くなる	鳥取SC	対面	2024年6月23日
		お茶を知れば、もっと美味くなる	鳥取SC 西粟倉村教育委員会	対面	2024年10月18日
		お漬物を知れば、もっと美味くなる	鳥取SC	対面	2024年11月24日
鳥取SC	渡邊 文雄	納豆を知れば、もっと美味くなる	鳥取SC	対面	2025年1月12日
		鳥類の産卵機能と安全な卵の生産	広島SC	対面	2024年8月3日
		鳥類の産卵機能と安全な卵の生産	広島SC	対面	2024年8月4日
		動物からの贈り物	広島SC	対面	2025年2月8日
		動物からの贈り物	広島SC	対面	2025年3月9日
山口SC	杉浦 崇夫	ロコモ予防の運動	山口SC 山陽小野田市立中央図書館	対面	2025年1月11日
愛媛SC	吉田 正広	カンタベリー巡礼と文学 — 四国遍路研究とかかわり続けたイギリス史(3)—	愛媛SC	対面	2024年9月7日
		『カンタベリー物語』に見る巡礼者の世界 — 四国遍路研究とかかわり続けたイギリス史(4)—	愛媛SC	対面	2025年3月8日
		海洋深層水の“真相”～その有効利用と大きな潜在力～	高知SC	対面	2024年11月5日
熊本SC	谷 時雄	遺伝子の舞台裏・良い変異がもたらす人の健康からお酒造り酵母の未来まで	熊本SC	対面	2024年4月7日

オープンコースウェア（OCW）

OCWは「大学等で正規に提供された講義とその関連情報をインターネット上で無償公開する活動」であり、1999年米国マサチューセッツ工科大学（MIT）から始まったものである。学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された本学は、OCWの理念に賛同し、2010年にインターネットに

よる配信を開始した。

現在、本学で開講する放送授業（テレビ及びラジオ）のほとんどの科目において、1番組または全15番組を本学学生以外の方にもインターネットにて公開している。また、一部の特別講義も公開している。

2024年度オープンコースウェア科目（全15回分を公開）	
テレビ授業科目	テレビ授業科目
科目名	講師
ドイツ語Ⅰ（'23）	井出 万秀
中国語Ⅰ（'23）	宮本 徹
情報学へのとびら（'22）	加藤 浩／大西 仁
日本語リテラシー（'21）	滝浦 真人
遠隔学習のためのパソコン活用（'21）	秋光 淳生／三輪 眞木子
英語で「道」を語る（'21）	大橋 理枝／斎藤 兆史
地域・在宅看護論（'23）	永田 智子／小野 若菜子
人体の構造と機能（'22）	坂井 建雄／岡田 隆夫
地域福祉の課題と展望（'22）	斉藤 弥生／小松 理佐子
疾病の成立と回復促進（'21）	岡田 忍／佐伯 由香
子どもの人権をどうまわるのか（'21）	山縣 文治
コミュニティがつなぐ安全・安心（'20）	林 春男
災害看護学・国際看護学（'20）	神崎 初美／西上 あゆみ
コミュニティと教育（'24）	仲田 康一／大木 真徳
知覚・認知心理学（'23）	石口 彰
学習・言語心理学（'21）	高橋 秀明
教育調査の基礎（'20）	藤田 武志／西島 央
教育社会学概論（'19）	岩永 雅也
科目名	講師
会計学（'24）	川村 義則
ファイナンス入門（'23）	齋藤 正章／阿部 圭司
現代の内部監査（'22）	齋藤 正章／蟹江 章
サプライチェーン・マネジメント（'21）	松井 美樹
エネルギーと社会（'19）	迫田 章義／堤 敦司
地球温暖化と社会イノベーション（'18）	六川 修一／向井 人史
日本語学入門（'20）	滝浦 真人
中国と東部ユーラシアの歴史（'20）	佐川 英治／杉山 清彦
博物館情報・メディア論（'18）	稲村 哲也／近藤 智嗣
情報社会と国際ボランティア活動（'24）	山田 恒夫
データベース（'23）	辻 靖彦／芝崎 順司
教育のためのICT活用（'22）	中川 一史／苑 復傑
情報セキュリティ概論（'22）	山田 恒夫／辰己 丈夫
身近なネットワークサービス（'20）	葉田 善章
Webのしくみと応用（'19）	森本 容介／伊藤 一成
コンピュータとソフトウェア（'18）	辰己 丈夫／中谷 多哉子
コンピュータの動作と管理（'17）	葉田 善章
物理の世界（'24）	岸根 順一郎／清水 明

2024年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)

テレビ授業科目	
科目名	講師
宮沢賢治と宇宙('24)	谷口 義明／大森 聡一
初歩からの物理('22)	岸根 順一郎／松井 哲男
入門微分積分('22)	石崎 克也
量子物理学('21)	松井 哲男／岸根 順一郎
場と時間空間の物理('20)	松井 哲男／岸根 順一郎
生命分子と細胞の科学('19)	二河 成男
宇宙の誕生と進化('19)	谷口 義明
太陽と太陽系の科学('18)	谷口 義明
初歩からの化学('18)	安池 智一／鈴木 啓介
学校臨床心理学特論('21)	倉光 修

ラジオ授業科目	
心理と教育へのいざない('24)	苑 復傑／向田 久美子／佐藤 仁美
ドイツ語Ⅱ('23)	井出 万秀
市民自治の知識と実践('21)	山岡 龍一／岡崎 晴輝
社会と産業の倫理('21)	松原 隆一郎／山岡 龍一
ビートルズ de 英文法('21)	佐藤 良明
公衆衛生('24)	田城 孝雄／横山 和仁
看護管理と医療安全('24)	飯島 佐知子／田中 幸子
地域生活を支える社会福祉と法('24)	平部 康子／木村 茂喜
グリーフサポートと死生学('24)	石丸 昌彦／山崎 浩司
貧困の諸相('23)	駒村 康平／渡辺 久里子
リスクコミュニケーションの探究('23)	奈良 由美子
社会福祉実践とは何か('22)	横山 登志子
睡眠と健康('21)	宮崎 総一郎／林 光緒
リスク社会の家族変動('20)	田間 泰子
ライフステージと社会保障('20)	丸谷 浩介
健康への力の探究('19)	戸ヶ里 泰典／中山 和弘
教育の行政・政治・経営('23)	青木 栄一／川上 泰彦
現代教育入門('21)	岩永 雅也／岩崎 久美子
思春期・青年期の心理臨床('19)	大山 泰宏

2024年度インターネット無償公開特別講義

テレビ特別講義	
講義題目名	主な講師
手本をはなれて ～“想画”を生んだ奥出雲の地から～	佐々 有生／青木 宗一
風狂を生きる精神 ～ 一休・蕭白からアラキーまで ～	林 浩平
『おくのほそ道』の真髄 ～芭蕉自筆本に基づく新研究～	魚住 孝至
笑いの哲学～コントで分析～	森下 伸也
年縞が語る地球環境史	安田 喜憲
共に生きる社会を目指して	高橋 昭彦
～「医療的ケア児」をどう支えるのか～	
微生物が作る究極の薬を求めて	大村 智
大村智博士が語るノーベル賞への歩み	
分子の履歴を読み解く ～地球環境の指標・アイソトマー～	吉田 尚弘
レゲット教授が見た日本	アンソニー・レゲット／松井 哲男
～ノーベル賞科学者による異文化交流～	佐藤 文隆／福山 寛
身心一体科学からの健康寿命延伸 ～日本文化を先端科学につなぐ～	跡見 順子／森 常好
摩擦の世界	松川 宏／氏家 恒太郎／川勝 英樹
気仙沼 ESDの軌跡:持続可能な社会の創造をめざして	及川 幸彦

ラジオ授業科目	
科目名	講師
経営学入門('24)	原田 順子／松井 美樹
都市と地域の社会学('24)	北川 由紀彦／玉野 和志
現代国際社会と有機農業('23)	中西 徹
政治学入門('22)	山岡 龍一／待鳥 聡史
NPO・NGOの世界('21)	大橋 正明／利根川 佳子
西アジアの歴史('24)	林 佳世子
哲学・思想を今考える('23)	魚住 孝至
樋口一葉の世界('23)	島内 裕子
西洋哲学の根源('22)	納富 信留
韓国朝鮮の歴史と文化('21)	須川 英徳／三ツ井 崇
日本の近世('20)	杉森 哲也
要求工学('24)	中谷 多哉子／大西 淳
自然言語処理('23)	黒橋 禎夫
AIシステムと人・社会との関係('20)	山口 高平／中谷 多哉子
現代を生きるための化学('22)	橋本 健朗
エントロピーからはじめる熱力学('20)	安池 智一／秋山 良
統計学('19)	藤井 良宜
線型代数学('17)	隈部 正博
福祉政策と人権('22)	金川 めぐみ
ヘルスリサーチの方法論('19)	井上 洋士
生活リスクマネジメント('17)	奈良 由美子
成人の発達と学習('19)	岩崎 久美子
臨床心理学研究法特論('23)	石原 宏／川部 哲也
日本文化と思想の展開－内と外と('22)	魚住 孝至
朝鮮の歴史と社会－近世近代('20)	須川 英徳／三ツ井 崇
音楽・情報・脳('23)	仁科 エミ／河合 徳枝
コンピューティング('19)	萩谷 昌己
現代物理の展望('19)	岸根 順一郎／松井 哲男
計算論('16)	隈部 正博

ラジオ特別講義	
講義題目名	主な講師
通信教育で人生が変わった ～女優・作家 中江有里～	中江 有里
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	河合 薫／安田雅彦
脳脊髄液減少症と児童・生徒	篠永 正道
研究不正と研究倫理	児玉 晴男
DV被害者の声 ～求められる支援のありかたとは～	須藤 八千代
病・人・社会(1) ～統合失調症が教えること～	白石 弘巳
病・人・社会(2) ～人を支援する人が受け取るもの～	白石 弘巳
「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	丸山 茂徳
科学は文化だ－科学技術週間60年の 変遷にみる日本の科学と社会－	富田 知宏／奈良 由美子 石橋 一郎
天文学を魅力的に伝えたい	縣 秀彦

Annual Review 2024

放送大学における研究

次世代教育研究開発センターにおける研究

次世代教育研究開発センター(以下センター)は、本学園及び我が国の高等教育の充実・発展に寄与することを目的として、放送大学に設置されていた「オンライン教育センター」及び、学園に設置されていた「学習教育戦略研究所」を発展的に改組し、2024年4月に設置された。センターは、放送大学の教授形態の多様性と特性を踏まえた、先駆的な教育手法や教育内容の企画・制作・評

価を通じて、次世代を見据えた遠隔高等教育の研究開発を行うとともに、放送大学学園の経営戦略の観点からの研究開発等を行う。また、センターは、内外の研究機関と技術的、人的なネットワークを形成し、次世代を見据えた遠隔高等教育を研究開発する。2024年度には、次の研究開発課題を実施した。

次世代教育研究開発センター 研究開発課題一覧			
		研究開発課題名	研究代表者
学習研究部門	評価・分析 ユニット	データ基礎整備	森本 容介 教授
		学習履歴データの分析と学生支援システムの提供	森本 容介 教授
		放送教育・デジタル教材の調査研究	小林 祐紀 准教授
	手法・教材開発ユニット	質保証された単位認定のための試験手法の研究	加藤 浩 教授
		生成AIを活用したスキル測定問題の作成支援方法の研究	平岡 斉士 准教授
		教材制作DXプロジェクト	加藤 浩 教授
		電子書籍プラットフォームを核とする生涯学習デジタルエコシステムと流通方略の研究	山田 恒夫 教授
		遠隔教育におけるバーチャルラーニングコモンズ(VLC)の有効性の研究	青木 久美子 教授
	学修支援・交流ユニット	バーチャルラーニングコモンズをめざしたオンライン学習グループの展開	宮本 陽一郎 特任教授
		ライブWeb授業におけるジオロジーのバーチャル野外+リモート機器実習の開発	大森 聡一 教授
経営戦略部門	タイプA (研究開発テーマ公募型)	マイクロ creden シャル共通枠組みによるグローバル大学連携	青木 久美子 教授
		放送大学国際シンポジウムの開催	林 徹 副学長
		放送大学コンテンツを活かした知的障害者の学習方法及び学修成果の評価に関する実践的研究	里見 朋香 理事
	タイプB (研究開発チーム募集型)	放送大学教材を用いた先取り学習の推進を軸とした高等学校との連携協力に関する研究	加藤 和弘 副学長
		リカレント教育等の拡充のためのプラットフォームの整備	芝崎 順司 教授
		放送大学の教育実践・蓄積を進化させた遠隔高等教育標準(OIJモデル)の開発	森津 太子 教授

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は本学の専任教員等が日頃の研究成果を2024年度版(第42号)は2025年3月に発行された。を発表する場である。

2024年度放送大学研究年報(第42号)著者及び論題	
著 者	論 題
稲村 哲也, 高橋 博文, スヘー・バートルガ, スフバートル・オトゴンツェツェグ, 奈良 由美子	放送大学におけるモンゴル国立大学教職員の研修受け入れ
石井 祥子, 奈良 由美子, 鈴木 康弘, 稲村 哲也, セルドヤンジヴ・ナランゲレル, スヘー・バートルガ, ビャンバジャブ・ナルマンダハ	JICA草の根技術協力事業「モンゴルにおける地球環境変動に伴う大規模自然災害への防災啓発プロジェクト」の成果と今後の展開
山田 知子	救護法成立・施行過程における社会事業調査の意義に関する研究－明治20年代から明治末期に実施された細民調査を手掛かりに－
橋本 朋広	心理療法における相互変容モデル
森 津太子、高橋 秀明、進藤 聡彦、向田 久美子	放送大学における心理学実験実習科目の現状と課題
佐藤 仁美	反復表現の意味をめぐって
波田野 茂幸	就学相談員の保護者面談における観点について－生態学的視点に注目して－

2024年度放送大学研究年報(第42号)著者及び論題	
著 者	論 題
大橋 理枝	車椅子から「特権」を考える
橋本 鉦市	「教育産業」の業務内容とその自己認識 ―meta descriptionの内容分析―
村松 健司、坪井 瞳、保坂 亨	児童養護施設入所児の保育所等の二重利用について
橋本 健朗、宮本 陽一郎、佐藤 智徳、芝崎 順司、森本 容介、辻 靖彦、隈部 正博、滝澤 登、伊東 明彦、猪嶋 哲也、工藤 元、川村 千夏、筒井 友恵、谷平 泰晃、近藤 智嗣、加藤 和弘、林 徹	放送大学に相応しいリメディアル教育の実践的研究 ―オンライン学習グループの試み―
近藤 智嗣、相良 たまみ	放送大学におけるAIトランスフォーメーションの可能性

外部資金による研究

本学では、専任教員等が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。研究の支援・推進のために、放送大学教育振興会等他機関からの助成基金を積極的に

得て研究を進めている。2024年度に放送大学教育振興会・日本学術振興会等の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

放送大学教育振興会助成による研究：多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発（採択順）			
所属	職名	氏名	研究課題名
心理と教育	教授	森 津太子	心理学実験実習に係るオンライン教材の研究開発
情報	准教授	平岡 斉士	教育機関内外での学びをシームレスに記録・省察・統合できるeポートフォリオシステムの機能開発と評価

放送大学教育振興会助成による研究：教材の海外への普及・協力事業、国際交流の促進事業			
所属	職名	氏名	研究課題名
情報	教授	青木 久美子	マイクロレジデンシャルのレジストリー構築のための海外動向調査

放送大学教育振興会助成による研究：教育の普及・振興及び当該教育を担う人材育成事業			
所属	職名	氏名	研究課題名
情報	教授	青木 久美子	大学等における放送、インターネット等を利用した教育を担う人材育成を活性化するデジタルクレデンシャルレジストリの構築事業

放送大学教育振興会助成による研究：「次世代教育研究開発センター」における研究等事業			
所属	職名	氏名	研究課題名
次世代教育研究開発センター	センター長	中川 一史	次世代教育研究開発センターにおける研究開発の推進事業

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（氏名は代表者）（研究種目・研究終了予定日順）				
所属	職名	代表者氏名	研究種目	研究課題名
生活と福祉	教授	山内 豊明	基盤研究(B)	看護臨床アセスメントモデル構築と人工知能による深層学習に向けた学際的探索研究
心理と教育	教授	橋本 鉦市	基盤研究(B)	教育機関と産業界・地域・市民社会を架橋する境界領域(EBF)に関する実証的研究
自然と環境	教授	岸根 順一郎	基盤研究(B)	カイラリティが誘導するフォノン・スピン・フォトン交差結合の理論
	客員教授	稲村 哲也	基盤研究(B)	山岳高所における環境・動物・人の相互作用のダイナミズムー中央アンデスを中心に
京都SC	特任教授	玉田 芳史	基盤研究(B)	脱民主化の政治：アジア地域研究からの接近
情報	教授	加藤 浩	基盤研究(B)	遠隔教育における学習者の表出の機能解明と表出促進システムによる学習改善の研究
社会と産業	教授	玉野 和志	基盤研究(C)	メッシュデータによる都市地域(mdbUA2010)の変容に関する研究
社会と産業	准教授	桑田 学	基盤研究(C)	人新世の思想史研究：19世紀中葉～両戦間期のエコノミーとエコロジーの概念史
社会と産業	准教授	白鳥 潤一郎	基盤研究(C)	先進国間協調体制の形成と変容：主要国首脳会議における日本外交、1975-1983
北海道SC	特任教授	山田 義裕	基盤研究(C)	東アジアにおける拡張現実時代の平和と観光に関する研究

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（氏名は代表者）（研究種目・研究終了予定日順）				
所属	職名	代表者氏名	研究種目	研究課題名
心理と教育	教授	村松 健司	基盤研究(C)	社会的養護経験者に対する大学教育支援の基礎的研究
情報	准教授	葉田 善章	基盤研究(C)	生涯学習における履歴に基づく教育サービス改善を目的とした学習解析手法に関する研究
愛知SC	特任教授	根本 二郎	基盤研究(C)	新しい生産性分析によるわが国電力自由化の定量的評価
心理と教育	教授	苑 復傑	基盤研究(C)	脱グローバル化局面における中国の高等教育ー政策転換の構造と大学の葛藤ー
情報	教授	辻 靖彦	基盤研究(C)	教員と学生の大規模実態調査に基づくブレンド型授業の質保証のためのガイドライン策定
情報	准教授	平岡 斉士	基盤研究(C)	行動変容をうながす漫画教材とノベルゲーム教材のストーリー作成支援ツールの開発
心理と教育	教授	進藤 聡彦	基盤研究(C)	社会科における知識の構造化を促進する教授方略としての知識操作
自然と環境	教授	石崎 克也	基盤研究(C)	差分方程式の解の与える微分超越性への影響について
徳島SC	特任教授	橋爪 正樹	基盤研究(C)	ダイ間配線の出荷後電気検査をも可能にする組込み型検査回路に関する研究
情報	教授	浅井 紀久夫	基盤研究(C)	技能伝承のための分散協調訓練での人間拡張による触力感覚を伴った手指動作の再現
情報	教授	仁科 エミ	基盤研究(C)	オンライン学習における生理的負荷の計測と背景音環境造成効果の検証
	副学長	林 徹	基盤研究(C)	トルコにおける「秘密語」の成立とその社会的機能に関する調査研究
愛媛SC	特任教授	吉田 正広	基盤研究(C)	ロンドンのイースト・エンドにおける第一次世界大戦の戦死者追悼と地域社会
情報	教授	青木 久美子	基盤研究(C)	オンライン遠隔教育における学習環境としてのバーチャルラーニング commons の研究
自然と環境	教授	安池 智一	基盤研究(C)	プラズモンナノキャビティと分子の強結合による化学反応制御
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	基盤研究(C)	筋力回復リハビリテーションにおけるかけ声効果に最適な音声予測手法
心理と教育	准教授	櫻井 直輝	基盤研究(C)	現代日本の学校統廃合政策の展開と政策アイディアに関する研究
生活と福祉	教授	川島 聡	基盤研究(C)	障害法における自律と包摂との相克
生活と福祉	教授	奈良 由美子	挑戦的研究	政治家に必要な科学リテラシー・コミュニケーション能力の同定とその開発支援ツール
心理と教育	准教授	櫻井 直輝	若手研究	市町村教育予算の規定要因として地方交付税制度に関する研究
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	基盤研究(B)	看護学におけるエンパワメントおよび首尾一貫感覚の理論整備と標準化に関する総合研究
埼玉SC	特任教授	川又 伸彦	基盤研究(C)	ドイツ憲法異議の史的展開
人間と文化	准教授	小二田 章	基盤研究(C)	地方史誌研究の基盤形成
情報	教授	森本 容介	基盤研究(C)	xAPIによる学習履歴データの記述とその利活用に関する研究
秋田SC	特任教授	倉林 徹	基盤研究(C)	繊維種テラヘルツスペクトルの定量分析法と繊維中の欠陥評価に関する研究
新潟SC	特任教授	大原 謙一	基盤研究(C)	Hilbert-Huang変換を用いた重力波の非モデル化探索
	副学長	加藤 和弘	基盤研究(C)	緑地に隣接する建築物のありかたが鳥類による緑地の利用に及ぼす影響
奈良SC	特任教授	井上 容子	基盤研究(C)	生活シーンと視覚特性の加齢変化を考慮した一日を通した照明の適正化手法の究明と提案
人間と文化	准教授	船岡 美穂子	基盤研究(C)	18世紀フランスの風景画研究ー美術愛好家による作品制作の視点から
心理と教育	准教授	高梨 利恵子	基盤研究(C)	発達障害を背景に持つ慢性疼痛への認知行動療法
	客員教授	稲村 哲也	挑戦的研究	遊牧・山岳・先住民地域におけるリモート教育のモデル構築に関する実践的研究

その他外部資金助成による研究（本学の教員が代表のもののみ）

その他外部資金助成による研究（本学の教員が代表のもののみ）					
所属	職名	氏名	助成元	資金名・事業名等	研究課題名
山梨SC	特任教授	村松 俊夫	公益財団法人 北野生涯教育振興会	2024年度生涯 教育研究助成金	生涯教育における「STEAMS(スティームス)教育」理念浸透のための啓発活動ー触知体験型教育遊具を用いてー
生活と福祉	教授	朝倉 富子	公益財団法人 ソルト・サイエンス研究財団	2024年度研究助成	新規塩味受容分子TMC4を用いた 塩味増強活性の測定
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	公益財団法人 ユニバール財団	2024年度研究助成	LGBTQ+でHIV陽性である人のストレス対処力とメンタルヘルス ：当事者参加型リサーチによる全国調査
人間と文化	准教授	小二田 章	公益財団法人 JFE21世紀財団	2022年度アジア歴史研究助成 (2023年1月～2024年12月)	東アジア地方史誌の研究

研究成果の発表・普及【書籍等出版物】

本学の専任教員・学習センター所長は、研究の成果を発表し共有・普及する
 ために、印刷教材以外にも、多数の書籍編集・執筆、及び辞書・辞典などの編纂を行っている。これらの書籍は、より専門的かつ先進的な内容を含んでおり、各教員が日々取り組んでいる独自の研究テーマや研究活動の成果である。

2024年度研究成果の発表・普及【書籍等出版物】				
所 属	氏 名	書籍名、辞書・辞典名、共著者	出版社	出版年月
生活と福祉	川島 聡	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『障害者福祉第2版(最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座8)』、単独執筆部分:「障害者権利条約と障害者基本法」「合理的配慮の具体例(大学等での対応)」76-86頁	中央法規出版	2025年1月
		『社会福祉学習双書』編集委員会編『権利擁護を支える法制度／刑事司法と福祉(社会福祉学習双書2025第13巻)』、単独執筆部分:「虐待防止法」「障害者差別解消法」「意思決定支援ガイドライン」158-182頁	全国社会福祉協議会	2025年2月
	奈良 由美子	シニアが陥る 50 の危険 / 三菱総合研究所, 奈良由美子	青春出版社	2024年4月
	리스크 커뮤니케이션 이론과 실천 (『リスクコミュニケーションの探究』韓国語版) / 奈良由美子編著, 혼・송현진訳	레질리언트시스템스플러스 연구소 (UDO INC & RS+ INS)	2024年6月	
心理と教育	小林 祐紀	新型コロナウイルス感染症対応記録(続編) 尾身茂・脇田隆字監修、佐原康之・和田耕治編 / 奈良由美子 [リスクコミュニケーションの実践と課題ーコミュニティ・エンゲージメントとしての感染症対策を支え続けるためにー]	日本公衆衛生協会	2024年12月
		小学校時報 教育論壇 一人一台環境を活用したこれからの授業づくり / 小林祐紀 [4-8]	第一公報社	2024年6月
		[図解] AI 時代の教師が知っておきたい IT・情報リテラシー校務DXに必要な基礎知識 / 小林祐紀, 郡司竜平, 安井政樹, 岩崎有朋, 津下哲也, 山口真希, 安藤昇	インプレス	2024年12月
		情報活用能力ベーシック 活用ガイドブック / 中川一史, 小林祐紀, 佐藤幸江, 岩崎有朋 [1章3, 4章1, おわりに]	東洋館出版社	2025年3月
	櫻井 直輝	基礎から学ぶ教育行政学・教育制度論 / 阿内春生, 櫻井直輝 [第2章 教育行政の機関]	昭和堂	2024年4月
	向田 久美子	教育メディアの変遷とメディア教育の深化: 放送 100 年 / 日本放送協会放送文化研究所 [メディア利用が学力に及ぼす影響とテレビ親近性、社会性]	NHK 出版	2025年3月
	村松 健司	心理学検定公式問題集 2025 年度版	実務教育出版	2024年11月
	心理学検定基本キーワード第3版	実務教育出版	2024年11月	
社会と産業	北川 由紀彦	社会をひもとく——都市・地域にみる社会問題の問い方	有斐閣	2025年3月
		「都市下層と地域社会」森岡清志編『新・地域の社会学』/ 北川由紀彦 [第 11 章 (227-246 頁)]	有斐閣	2025年3月
	桑田 学	「排除された人々が生み出す社会——新宿の段ボール小屋集落に注目して」内藤直樹・森明子編『寄食という生き方——埒外の政治-経済の人類学』/ 北川由紀彦 [第 4 章 (91-108 頁)]	昭和堂	2025年3月
		無知学への招待——〈知らないこと〉を問い直す / 鶴田想人、塚原東吾 [経済学における「自然」の不可視化]	明石書店	2025年3月
	白鳥 潤一郎	日本外交の論点 新版 / 佐藤史郎, 川名晋史, 上野友也, 齊藤孝祐, 山口航編 [第 21 章「資源小国」日本のエネルギー外交(228-238 頁)]	法律文化社	2024年4月
	駐韓国大使日誌 1997 ～ 2000——日韓パートナーシップ宣言とその時代 / 小倉和夫著, 昇亜美子, 白鳥潤一郎, 河兎珍編	岩波書店	岩波書店	2024年6月
				2024年6月
	玉野 和志	町内会: コミュニティからみる日本近代 / 玉野和志	筑摩書房	2024年6月
人間と文化	大橋 理枝	「言語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠 - 新能力記述文を伴う CEFR 随伴版」(2020 年欧州評議会発行 Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment: Companion Volume with New Descriptors の日本語訳) / 吉島茂, 大橋理枝	Goethe-Institut (https://www.goethe.de/resources/files/pdf328/cefr-cv-jap-mit-cover-finale-neu-v3.pdf)	2024年5月
		「万物の黎明」を読む / 大村敬一 [未来の空: 多様性の苗床になるための人類学]	河出書房新社	2024年4月
	河原 温	星の文化史 / 大村敬一 [天空の時計: イヌイトの民族天文学 (pp. 36-43)]	丸善出版	2025年3月
		西洋中世文化事典 / 編集委員 (西洋中世学会)	丸善出版	2024年11月
	小二田 章	地方史誌から世界を読む / 小二田章	勉誠社	2025年1月
	野崎 歆	女性・戦争・植民地 1919-1939 / 澤田直, 野崎歆	水声社	2025年3月
	船岡 美穂子	アンドレ・フェリビアン「王立絵画彫刻アカデミー講演録」注解 / 栗田秀法, 望月典子, 編, 倉持充希, 太田みき, 小林亜起子, 福田恭子, 船岡美穂子 [「第八回講演会」(翻訳と解題)]	中央公論美術出版	2025年3月
	宮本 徹	(項目執筆)「漢字(誕生・起源)」, 川合康三等編『中国／日本〈漢〉文化大事典』、明治書院、2024 年 6 月	明治書院	2024年6月
	自然と環境	ゴッホは星空に何を見たか	光文社	2024年11月
	公認心理師教育推進室	カウンセリングのダイナミクス / 長岡千賀, 大山康宏, 桑原知子, 小森政嗣, 吉川左紀子, 渡部幹 [第 3 章]	パブファンセルフ	2024年4月
障がいに関する学生支援相談室	[改訂版] 障害のある子どもへのサポートナビ: 特別支援教育の理解と方法 / 松浦俊弥, 角田哲哉	北樹出版	2024年4月	
埼玉 SC	川又 伸彦	ミハエル・ザックス ドイツ憲法訴訟法 / 土屋武, 畑尻剛監訳 [第 1 部 A. 序章 B. 裁判所の構成]	中央大学出版部	2025年3月
大阪 SC	金水 敏	よくわかる日本語学 / 金水敏	ミネルヴァ書房	2024年7月
岡山 SC	田仲 洋己	中世歌合集 / 久保田淳, 山田洋嗣, 福留温子, 加藤睦, 谷知子, 田仲洋己, 吉野朋美, 堀川貴司, 五月女肇志	明治書院	2024年5月

研究成果の発表・普及【論文】

本学の専任教員及び学習センター所長は、各分野・領域における
 専門家であり、研究を通じて教育の原動力となる問題追究する力と
 新たな発見を生み出している。2024年度に発表された学術研究論文のうち、審査を受け学術雑誌等で公開された論文を紹介する。

2024年度研究成果の発表・普及【論文】				
所 属	氏 名	論文名、共著者	発表媒体等	発表(出版)年月
生活と福祉	朝倉 富子	Effects of fatty acid hydroperoxides produced by lipoxygenase in wheat cultivars during dough preparation on volatile compound formation(Tomoyuki Narisawa,Koichiro Sakai,Hideo Nakajima,Marie Umino,Haruyuki Yamashita,Kenjiro Sugiyama,Chikako Kiribuchi-Otobe,Kiwamu Shiiba,Masaharu Yamada,Tomiko Asakura)	Food Chemistry	2024年6月
		The complexities of salt taste reception: insights into the role of TMC4 in chloride taste detection.(Yoichi Kasahara,Masataka Narukawa,Yoshikazu Saito,Keiko Abe,Tomiko Asakura)	Front. Mol. Neurosci.	2024年9月
		Changes in gene expression due to aging in the hypothalamus of mice.(Masataka Narukawa,Yoshikazu Saito,Yoichi Kasahara,Tomiko Asakura,Takumi Misaka)	Neuroreport	2024年10月
		ミルクチョコレートのなめらかさがもたらす感情への影響ー主観的幸福感に着目した検討ー / 市川智也,永安弘宣,畠山より子,黒田玲子,齋藤主祐,リュウ イチョク,朝倉富子	日本感性工学会論文誌	2025年2月
	川原 靖弘	Dorsal Anterior Cingulate Cortex Coordinates Contextual Mental Imagery for Single-Beat Manipulation during Rhythmic Sensorimotor Synchronization(Maho Uemura,Yoshitada Katagiri,Emiko Imai,Yasuhiro Kawahara,Yoshitaka Otani,Tomoko Ichinose,Katsuhiko Kondo,Hisatomo Kowa)	Brain Sciences	2024年7月
	関根 紀子	Sex-related differences in the posture and vertical perception of gait function in patients with Parkinson's disease.(Kyohei Mikami,Tsutomu Kamo,Noriko Ichinoseki-Sekine)	Gait & Posture	2024年7月
	戸ヶ里 泰典	関節リウマチ患者の心理的適応尺度の開発 / 神崎初美,戸ヶ里泰典,畑真紀子,井上満代,日高利彦,黒木喜美子,村澤章,三浦靖史,松井聖	臨床リウマチ	2024年4月
		Does sense of coherence buffer the effects of moral dilemmas faced by psychiatric nurses in Japan? A cross-sectional study(Kazuko Hisadomi,Taisuke Togari)	Archives of Psychiatric Nursing	2024年7月
		日本国内在住のHIV陽性者におけるアルコール依存の実態と心理社会的要因 / 戸ヶ里泰典,井上洋士,高久陽介,阿部桜子,細川陸也,塩野徳史,関由起子,米 佑貴,山内麻江,若林チヒロ,大木幸子	日本公衆衛生学会総会抄録集	2024年10月
		HIV陽性者におけるレクリエーションalドラッグの使用とソーシャルサポート・ストレス対処力との関連 Futures Japan第3回調査より / 戸ヶ里泰典,井上洋士,高久陽介,大島岳,阿部桜子,細川陸也,塩野徳史,米倉佑貴,片倉直子,山内麻江,井上智史,関由起子,若林チヒロ,大木幸子	日本エイズ学会誌	2024年11月
SOC 研究の光と影		心理学評論	2024年12月	
奈良 由美子		リスクコミュニケーション総論——リスクコミュニケーションをめぐる7つの誤解と正解——	INFECTION CONTROL	2024年4月
	感染症災害とリスクコミュニケーション	治安フォーラム	2024年4月	
	「専門家」としてのリスクコミュニケーション実践(特集「COVID-19 渦中での研究と実践〜リスク状況における専門知の意味とは?〜」) / 田中幹人,奈良由美子,武藤香織,小坂健	人工知能	2024年5月	
	原子力安全設計のリスクコミュニケーションに 向けて専門家・技術者が考える情報発信と対話 ー土木学会原子力土木委員会を 対象とした質的調査ー / 桑垣玲子,堀口逸子,奈良由美子	土木学会論文集	2024年7月	
	東京都におけるリスクガバナンスとリスクコミュニケーション——東京感染症対策センター (東京iCDC) によるリスクの共考と協働—— / 西塚至,奈良由美子	公衆衛生	2024年7月	
	A Study on Organizing Communication Characteristics and Creating an Evaluation Scale in Co-creative Modeling - Based on Narrative Review(Yumiko Nara,Yusuke Goto,Kotaro Ohori,Keiichiro Tahara,Shingo Takahashi)	Procedia Computer Science	2024年11月	
	新型インフルエンザ等対策政府行動計画におけるリスクコミュニケーションの位置付けとその担い手	公衆衛生	2025年3月	
心理と教育	山内 豊明	特集 心電図・聴診を学ぶ救急活動の鍵 聴診-モニタリングの重要性-	Prehospital Care	2024年8月
	進藤 聡彦	「知識適用における既知性効果」の一般性およびその発生機序 / 工藤与志文,佐藤誠子,進藤聡彦	教育心理学研究	2024年6月
		ルールの機能的側面の教授が課題解決に及ぼす効果ー「深化機能」を中心にー / 工藤与志文,佐藤誠子,進藤聡彦	教育心理学研究	2024年9月
	高梨 利恵子	Neurodevelopmental and personality traits of somatic symptom disorder: A cross-sectional study.(Mirai Miyoshi,Rieko Takanashi,Kayoko Taguchi,Tokiko Yoshida,Kohei Kurita,Eiji Shimizu)	PCN reports : psychiatry and clinical neurosciences	2025年3月
	橋本 鉦市	実務家教員を目指す人たちの属性と大学教員観ー実務家教員養成課程修了生調査の結果からー / 日下岳史,谷村英洋,小島佐恵子,橋本鉦市	『大学改革・学位研究』	2024年9月

2024年度研究成果の発表・普及【論文】

所 属	氏 名	論文名、共著者	発表媒体等	発表(出版)年月
社会と産業	松井 美樹	Market knowledge impacts on performances through front end process: empirical evidence from manufacturing plants across countries(Anh Ngoc Duong,Anh Chi Phan,Ryuichi Nakamoto,Ha Thu Nguyen,Yoshiki Matsui)	International Journal of Productivity and Quality Management	2024年4月
		The impact of psychological safety on improvement capability: the moderating role of manufacturing complexity(Nguyen Ngoc Anh,Thoa Xuan Thi Pham,Anh Chi Phan,Yoshiki Matsui)	Operations Management Research	2025年1月
人間と文化	李 鳴	複数の転倒事故の一連性と不慮の事故の急激性要件等	法学研究	2024年5月
	大村 敬一	未来の空：多様性の苗床になるための人類学	『「万物の黎明」を読む』（酒井隆史編）河出書房新社	2024年4月
		Child Sharing in Inuit Subsistence System: A Device for Continuously Generating Inuit Extended Family.(Keiichi Omura)	Hunter Gatherer Research	2024年9月
	小二田 章 鶴見 英成	天空の時計：イヌイトの民族天文学	星の文化史（後藤明編）	2025年3月
		水利から観光へー中国・杭州の西湖管理における近代と自然開発	史潮	2024年12月
	野崎 敬	廃棄物の物質性——神殿の発生と反復的实践の原動力を考える / 荘司一歩,鶴見英成 ペルー、インガタンボ遺跡におけるLiDAR測量とその成果 / 山本睦,大谷博 則,オスカル・アリアス,ガブリエル・ビジェガス,ケビン・エスピリトゥ,鶴見英成	文化人類学	2024年9月
		文学と映画——相互連関の運動のただなかへ	古代アメリカ	2024年12月
	船岡 美穂子	映画の悩ましさ——芸術と非芸術のあいだ	『比較文学比較文化ハンドブック』今橋 映子・井上健監修・編、東京大学出版会	2024年9月
		ジャン＝シメオン・シャルダン作《デッサンの勉強》—素描する男性像と1753年のサロンをめぐる—	『リベラルアーツと芸術』石井洋二郎、鈴木順子編、水声社、2025年	2025年1月
	田辺幹之助先生退任記念論文集／Aspects of problems in Western Art History（東京芸術大学西洋美術史研究室紀要）	田辺幹之助先生退任記念論文集／Aspects of problems in Western Art History（東京芸術大学西洋美術史研究室紀要）	田辺幹之助先生退任記念論文集／Aspects of problems in Western Art History（東京芸術大学西洋美術史研究室紀要）	2024年12月
情報	浅井 紀久夫	Regressing Variations of Joint Angles for Continuously Estimating Hand Finger Movements From sEMG Signals Using Recurrent Neural Networks(Kikuo Asai)	In Proceedings of the 2024 6th International Conference on Image, Video and Signal Processing (IVSP '24). Association for Computing Machinery	2024年6月
	近藤 智嗣	法政大学の伝統としての視聴覚教育研究と乾孝による縁	HOSEI ミュージアム紀要	2025年3月
	鈴木 一史	Research on the transmission of the Open University of Japan courses via multi-device apps oriented to the learning ecosystem(Haruo Kodama,Motofumi T. Suzuki,Yoshitomo Yaginuma)	Asian Association of Open Universities Journal	2024年11月
	中谷 多哉子	後方追跡に基づくSRSとStRSの間の一貫性を向上させるための手法の提案 / 小林百恵,中谷多哉子	Proc. of the International Conference on AI-empowered Software Engineering – AIESE 2024	2024年8月
		OSSにおけるコミット履歴に基づくソフトウェア-コミュニティ共進化の分析 / 杉山 透,中谷 多哉子	ソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2024論文集	2024年9月
	平岡 斉士	実践力習得のための研修設計の提案 - 学習課題の分類に基づく従来版の調査と改善 - / 菊内由貴,喜多敏博,中野裕司,鈴木克明,平岡斉士	教育システム情報学会誌	2024年4月
	柳沼 良知	Extraction of Emotional Patterns in Novels and Analysis of Their Transitions(Masako Furukawa,Yoshitomo Yaginuma)	IIAI Letters on Informatics and Interdisciplinary Research, vol.5, LIIR277	2024年9月
		Research on the transmission of the Open University of Japan courses via multi-device apps oriented to the learning ecosystem(Haruo Kodama,Motofumi T. Suzuki,Yoshitomo Yaginuma)	Asian Association of Open Universities Journal	2024年11月
	山田 恒夫	デジタル履修証明とデジタル証明書に関する国際技術標準の最新動向	工学教育	2025年1月
	石崎 克也	Possible orders of transcendental meromorphic solutions of linear difference equations with polynomial coefficients(Ishizaki K.,Zhi-TaoWen)	J. Anal. Math. DOI: /10.1007/s11854-025-0357-4	2025年1月
自然と環境	岸根 順一郎	Emergence of chirality from electron spins, physical fields, and material-field composites(Hiroaki Kusunose,Jun Ichiro Kishine,Hiroshi M. Yamamoto)	Applied Physics Letters	2024年6月
		Nonreciprocal magnetoacoustic waves with out-of- plane phononic angular momenta(Liyang Liao,Fa Chen,Jorge Puebla,Jun Ichiro Kishine,Kouta Kondou,Wei Luo,Degang Zhao,Yue Zhang,You Ba,Yoshichika Otani)	Science Advances	2024年7月
	隈部 正博	Emergent elasticity and wavelike to particle-like crossover in a magnetic chiral soliton lattice(A. A. Tereshchenko,VI E. Sinitsyn,I. G. Bostrem,P. V. Prudnikov,A. S. Ovchinnikov,J. Kishine)	Physical Review B	2024年10月
		Solovay reducibility via Lipschitz functions and signed-digit representation(Masahiro Kumabe,Kenshi Miyabe,Toshio Suzuki)	Computability	2024年6月
	安池 智一	Deciphering cooperative effects in plexiton formation between Ag nanocluster and fullerene(Tatsuya Yoshida,Kazuya Watanabe,Fumiharu Nishita,Daiki Yamamoto,Hiroshi Okuyama,Tomokazu Yasuike)	Physical Review B	2024年5月
		Understanding of Corrosion Inhibitor Dispersion Process in Water through Interaction between Stearic Acid and Alkane(Susumu Hirano,Tatsuya Sei,Midori Kawasaki,Atsushi Kobayashi,Tomokazu Yasuike)	CORROSION	2024年6月
	公認心理師教育推進室 桑原 知子	Nonorthogonal basis adapted parameter-free complex absorbing potential and its application to open-boundary cluster model(Kosuke Imamura,Tomokazu Yasuike,Hirofumi Sato)	Bulletin of the Chemical Society of Japan	2024年10月
		Far-Ultraviolet Plexciton Formation in Water-Covered Indium Clusters(Naoki Nagatsuka,Ryoto Matsuguchi,Kazuya Watanabe,Takanori Koitaya,Daiki Yamamoto,Hiroshi Okuyama,Tomokazu Yasuike)	The Journal of Physical Chemistry Letters	2025年1月
	群馬SC	何が心理臨床なのか — それがわからないままに実践することの恐怖と魅力	臨床心理学	2025年1月
		森田論文に関するコメント — 攻撃性を表出することの難しさ	上智大学臨床心理研究	2025年1月
埼玉SC	川又 伸彦	特集 教師を支える	シンリンラボ https://shinrinlab.com/feature023_06/	2025年2月
		Theoretical study of Si/C mixed analogues of platonic hydrocarbons(Tamotsu Uchiyama,Taiji Nakamura,Miyabi Hiyaama,Takako Kudo)	Computational and Theoretical Chemistry	2025年1月
		1818年バイエルン王国憲法における憲法異議 —成立史を中心に—	社会科学論集（埼玉大学）	2024年12月

2024年度研究成果の発表・普及【論文】

所 属	氏 名	論文名、共著者	発表媒体等	発表(出版)年月
新潟SC	大原 謙一	Search for Gravitational-wave Transients Associated with Magnetar Bursts in Advanced LIGO and Advanced Virgo Data from the Third Observing Run(R. Abbott et al.)	Astrophysical Journal	2024年5月
		Observation of Gravitational Waves from the Coalescence of a 2.5–4.5 $M_{\odot}$ Compact Object and a Neutron Star(A. G. Abac et al.)	Astrophysical Journal Letters	2024年8月
		Search for Gravitational-lensing Signatures in the Full Third Observing Run of the LIGO-Virgo Network(R. Abbott et al.)	Astrophysical Journal	2024年8月
		Ultralight vector dark matter search using data from the KAGRA O3GK run(A. G. Abac et al.)	Physical Review D	2024年8月
		Search for Eccentric Black Hole Coalescences during the Third Observing Run of LIGO and Virgo(A. G. Abac et al.)	The Astrophysical Journal	2024年9月
		The first joint observation by KAGRA with GEO 600(Nami Uchikata et al.)	Proceedings of Science	2024年9月
		Parameter estimation of protoneutron stars from gravitational wave signals using the Hilbert-Huang transform(Seiya Sasaoka,Yusuke Sakai,Diego Dominguez,Kentaro Somiya,Kazuki Sakai,Ken-ichi Oohara,Marco Meyer-Conde,Hiroataka Takahashi)	Physical Review D	2024年11月
		A Search Using GEO600 for Gravitational Waves Coincident with Fast Radio Bursts from SGR 1935+2154(A. G. Abac et al.)	The Astrophysical Journal	2024年12月
		Swift-BAT GUANO Follow-up of Gravitational-wave Triggers in the Third LIGO-Virgo-KAGRA Observing Run(Gayathri Raman et al.)	The Astrophysical Journal	2025年2月
		Dehydro[12]- and [18]annulene-Fused Ball-Shaped Ruthenium Complex Oligomers: Synthesis, Aromatic/Antiaromatic Effect, and Symmetry for Near-Infrared Optical Properties(Sari Ishikawa,Hajime Maeda,Masahito Segi,Taniyuki Furuyama)	Chemistry – A European Journal	2024年4月
石川SC	千木 昌人	Induced of axial chirality in near-infrared-absorbing ball-shaped ruthenium complexes(Yoshitaka Shinokubo,Ryo Arai,Tatsuya Nishimura,Katsuhiko Maeda,Hajime Maeda,Masahito Segi,Taniyuki Furuyama)	Journal of Photochemistry and Photobiology A: Chemistry	2025年2月
三重SC	梅川 逸人	Potential Antihyperglycemic Effects of Adzuki (<i>Vigna angularis</i>) Polyphenols on Mice and Caco-2 Cells(Kenji Kuriya,Masahide Osumi,Mana Ishihara,Masahiro Nishio,Hiroataka Katsuzaki,Junpei Sono,Masahiro Nakamura,Hayato Umekawa)	Natural Product Communications	2024年9月
京都SC	玉田 芳史	Thailand and the North Korean Defectors(Yoshifumi Tamada)	Roles Review	2024年8月
兵庫SC	岡田 修一	Between- and Within-Couple Concordance for Health Behaviors Among Japanese Older Married Couples: Examining the Moderating Role of Working Time(Kazuhiro Harada,Kouhei Masumoto,Shuichi Okada)	International Journal of Behavioral Medicine	2024年4月
		Walking trail access, exercise behavior, and going out-of-home among older adults: Examining longitudinal associations and mediators.(Kazuhiro Harada,Kouhei Masumoto,Shuichi Okada)	Archives of gerontology and geriatrics	2024年11月
奈良SC	井上 容子	タスク&アンビエント照明における照度バランスに関する研究（その2）照明制御方式が定常順応時の容認率に与える影響 / 丸山悠,井上容子	日本建築学会環境系論文集	2024年7月
和歌山SC	宗森 純	非言語コミュニケーションと「共鳴」を備えた協力型迷路脱出ゲーム「Re:echo」の開発と外国人への適用 / 宗森純,徳野照馬,伊藤淳子	情報処理学会論文誌ジャーナル(Web)	2024年7月
鳥根SC	出口 顕	Enhancing Group Ideation with a Distributed KJ Method Support System(Jun Munemori)	Journal of Information Processing	2025年2月
		絵文字チャットの協力型オンラインRPGにおける会話分析	情報処理学会論文誌	2025年2月
		人類学者の知と生---「野蚕」というテキストとコンテキスト(1)	ミネルヴァ通信「究」	2024年12月
		語られないマリノウスキー---「野蚕」というテキストとコンテキスト(2)	ミネルヴァ通信「究」	2025年1月
		マリノウスキーと南アフリカ---「野蚕」というテキストとコンテキスト(3)	ミネルヴァ通信「究」	2025年2月
徳島SC	橋爪 正樹	人種隔離に反対するラドクリフ=ブラウン---「野蚕」というテキストとコンテキスト(4)	ミネルヴァ通信「究」	2025年3月
		Design of an Efficient PRPG for Testing an Approximate Multiplier Using Truncation(Daichi Akamatsu,Hiroyuki Yotsuyanagi,Masaki Hashizume)	Proc. of 2024 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC)	2024年7月
		Dependence of Threshold Values for Interconnect Testing with Relaxation Oscillators on Unit-to-unit Variations of ICs(Yuya Yamahashi,Masao Ohmatsu,Hiroyuki Yotsuyanagi,Shyue-Kung Lu,Masaki Hashizume)	Proc. of 2024 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC)	2024年7月
		バウンダリスキャンを用いる不完全接続の検査 / 四柳浩之,橋爪正樹	エレクトロニクス実装学会誌	2024年7月
		Detectability of Resistive Open Defects with Analog Relaxation Oscillators Under Unit-to-Unit Variations of Dies(Yuya Yamahashi,Yuto Ohtera,Hiroyuki Yotsuyanagi,Shyue-Kung Lu,Masaki Hashizume)	2024 International 3D Systems Integration Conference (3DIC)	2024年9月
福岡SC	久枝 良雄	バウンダリスキャン回路を流用した電流テストによるはんだ接合部の長期高信頼化の試み / 四柳浩之,橋爪正樹	エレクトロニクス実装学会誌	2025年1月
		Unraveling the Remarkable Influence of Substituents on the Emission Variation and Circularly Polarized Luminescence of Dinuclear Aluminum Triple-Stranded Helicates.(Kodai Ueno,Yuto Konishi,Luxia Cui,Takunori Harada,Kohei Ishibashi,Takeru Konta,Atsuya Muranaka,Yoshio Hisaeda,Yu Hoshino,Toshikazu Ono)	Inorganic chemistry	2024年4月

研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

2024年度研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】					
所 属	氏 名	テーマ、共著者	主催等	開催年月日	
生活と福祉	朝倉 富子	食と健康～高齢社会の「食」を栄養と嗜好から見つめる～ 小麦生地調製時の揮発性成分生成に対する還元性の水溶性成分の影響 / 成澤朋之、仲島日出男、朝倉富子 塩味の受容メカニズムは、どこまで明らかになったのか	放送大学 2024 年度オンライン講演会	2024年8月3日	
			日本食品科学工学会第 71 回大会	2024年8月31日	
			ソルト・サイエンスシンポジウム 2024 塩味感覚を複眼的に考える	2024年10月28日	
			日本農芸化学会 2025 年度札幌大会	2025年3月6日	
			日本農芸化学会 2025 年度札幌大会	2025年3月8日	
		小麦生地調製時に生じる酸化型水溶性化合物の解析 / 成澤朋之、仲島日出男、朝倉富子 咀嚼は幼若・成獣ラットの視床遺伝子発現に異なる影響を与える / 吉田朱里、清水愛恵、豊田集、安岡顕人、朝倉富子、永井俊匡 高濃度の塩味受容に関与する新規電位依存性クロライドチャネル TMC4 の発見 / 笠原洋一、成川真隆、朝倉富子 社会モデルと人権モデルについて	第 102 回日本生理学会	2025年3月17日	
	川島 聡		社会保障・障害と開発プラットフォームセミナー (DPI 日本会議主催、JICA 社会保障・障害と開発分野プラットフォーム協力)	2024年4月19日	
			市川房枝政治参画フォーラム	2024年5月25日	
		発達障害のある人と差別禁止	第 538 回社会法研究会	2024年6月1日	
		障害とはなにか、差別とはなにか	岐阜美術館	2024年6月8日	
		障害者差別解消法について	信託セミナー (信託協会)	2024年6月17日	
		合理的配慮と差別	ふえみ・ゼミ&カフェ	2024年6月29日	
		障害のある人の人権問題：特に障害者差別解消法について	法務省法務総合研究所「第 103 回法務局・地方法務局職員専門科(人権)研修」	2024年7月11日	
			鹿児島国際大学	2024年7月25日	
		障害者差別解消法と私立大学	国士舘大学	2024年7月27日	
		障害者差別解消法における差別とは	岡崎女子大学・岡崎女子短期大学	2024年8月28日	
		合理的配慮と差別	日本養護教諭養成大学協議会 2024 年度大会	2024年9月6日	
		障害のある学生への合理的配慮：紛争の防止と解決、人権モデルと社会モデルを理解する	障害学会第 21 回研究大会	2024年9月17日	
		障害学研究 20 号『障害学の展開』合評会でのコメント	東京通信大学	2024年10月5日	
		合理的配慮の正しい理解：改正障害者差別解消法を踏まえて法学の視点から			
		障害者差別解消法の改正：不当な差別的取扱い、合理的配慮の不提供について	企業における CSR・人権担当者向け実践講座 (経済産業省中小企業庁委託、(公財) 人権教育啓発推進センター 2024 年 9 月 17 日収録)	2024年10月16日	
			2024 East Asia Disability Studies Forum in Taiwan: CRPD After and Beyond (Chang Yung-Fa Foundation International Conference Center)	2024年10月26日	
		障害者のモデルの観点から障害者権利条約を分析する (An analysis of the CRPD in terms of models of disability)	京都橋大学	2024年10月30日	
		障害者差別解消法上の義務履行について理解を深める	京都産業大学	2024年11月5日	
		教職員が今知っておくべき障害者差別解消法 の基礎から応用まで	岡山地方法務局	2024年11月29日	
		障害者差別解消法の考え方	東京学芸大学	2024年12月2日	
		障害者差別解消法の禁止する差別概念のポイント	経済産業省中小企業庁、公益財団法人人権教育啓発推進センター(大阪会場)	2024年12月3日	
		障害者に対する差別の解消について	九州地区大学就職指導研究協議会	2024年12月13日	
		修学支援と就職支援	神奈川県私学会館	2024年12月16日	
		障害に基づく差別の禁止とは	日本学生支援機構「令和 6 年度障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー (実践編)」	2024年12月17日	
		禁止される差別とは何か～「第三次まとめ」を踏まえて～	経済産業省中小企業庁、公益財団法人人権教育啓発推進センター(広島会場)	2025年1月17日	
		障害者差別解消について	令和 6 年度 岡山市障害者自立支援協議会 フォーラム	2025年1月25日	
		法律の求める合理的配慮とは何か	国士舘大学比較法制研究所定例研究会	2025年2月4日	
		障害法の構造転換	大学コンソーシアム石川 石川県障がい学生等共同サポートセンター・金沢大学 障がい学生支援室	2025年2月20日	
		障害者差別解消法に基づいた障害学生支援	神戸大学・法と経済学セミナー	2025年3月4日	
	川原 靖弘	国際人権法における合理的配慮	第 27 回 日本ヒト脳マッピング学会	2025年3月8日	
		ハイブリッド型モデルによる脳波 ERP データを用いた統合失調症判別 / 横山裕美、川原靖弘			
	戸ヶ里 泰典	日本国内在住の HIV 陽性者におけるアルコール依存の実態と心理社会的要因 / 戸ヶ里泰典、井上洋士、高久陽介、阿部桜子、細川陸也、他	第 83 回日本公衆衛生学会総会	2024年10月23日	
		シンポジウム 1「HIV とともに生きる人はどこまで強くならなければならないのか？」 / 戸ヶ里泰典、牧原信也	第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会	2024年11月28日	
		シンポジウム 3：“生きていたい”を支える支援と社会を目指して ～HIV 陽性者の自殺とメンタルヘルスを考える～ 演題名：HIV 陽性者における自殺念慮・企図の実態と心理社会的要因—Futures Japan 全国調査より	第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会	2024年11月28日	
		HIV 陽性者が抱える慢性疾患および心身の自覚症状の実態 / 戸ヶ里泰典、井上洋士、大島岳、細川陸也、高久陽介	第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会	2024年11月29日	
		HIV 陽性者におけるレクリエショナルドラッグの使用とソーシャルサポート・ストレス対処力との関連：Futures Japan 第 3 回調査より / 戸ヶ里泰典、井上洋士、大島岳、高久陽介、阿部桜子、細川陸也、他	第 38 回日本エイズ学会学術集会・総会	2024年11月29日	
		関節リウマチ (RA) 患者の 心理的適応モデルの構築 / 神崎初美、戸ヶ里泰典、畑真紀子、井上満代	第 44 回日本看護科学学会学術集会	2024年12月7日	
	奈良 由美子	感染症とリスクコミュニケーションーリスクコミュニケーションの基本をふまえてー	日本感染症医薬品協会講演会	2024年6月25日	
		リスクコミュニケーションとコミュニティ・エンゲージメントが駆動する、感染症災害からの Build Back Better	第 98 回日本感染症学会学術講演会・第 72 回日本化学療法学会総会 合同学会	2024年6月28日	
		感染症対策へのリスクコミュニケーションのビルトイン	第 39 回日本環境感染学会総会・学術集会	2024年7月26日	

2024年度研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

所 属	氏 名	テーマ、共著者	主催等	開催年月日	
生活と福祉	奈良 由美子	リスクコミュニケーション総論ー「信頼」に焦点をすえてー	第 39 回日本環境感染学会総会・学術集会	2024年7月27日	
		リスクへのアプローチ	全国大学生生活協同組合連合会「学生の生活リスク講座」	2024年7月30日	
		不確実性の諸相とリスクコミュニケーション / 奈良由美子、中村晋、蛭澤勝三、平田京子、堀口逸子、桑垣玲子	土木学会全国大会研究討論会	2024年9月2日	
		A Study on Organizing Communication Characteristics and Creating an Evaluation Scale in Co-creative Modeling - Based on Narrative Review(Yumiko Nara,Yusuke Goto,Kotaro Ohori,Keiichiro Tahara,Shingo Takahashi)	28th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems (KES 2024)	2024年9月12日	
		コロナ対策の経験を踏まえて 都民に届く広報とはー今日から始めるリスクコミュニケーションー	東京感染症対策センター (東京 iCDC) 職員向けオンラインセミナー	2024年10月1日	
		感染症対策におけるコミュニケーションの実際と課題	神奈川県平塚保健福祉事務所秦野センター 感染症対応研修	2024年10月15日	
		リスクコミュニケーションとは	第 11 回 日経・FT 感染症会議	2024年10月22日	
		リスクコミュニケーションの基本と実践ー7 つの誤解と正解ー	損害保険事業総合研究所 環境問題講演会	2024年10月23日	
		コミュニケーションを問い直すー技術革新と社会・経済システムの変容ー / 上原哲太郎、松下慶太、谷原つかさ、奈良由美子、廣田俊郎、徳安彰	社会・経済システム学会 第 43 回大会 企画シンポジウム	2024年10月27日	
		リスクコミュニケーションを対象としたシステムティックレビュー論文におけるオーバービュー / 山口さち子、森寛子、奈良由美子、大西輝夫、小島原典子	日本リスク学会 第 37 回年次大会	2024年11月16日	
		我が国のリスクコミュニケーションに関する事例調査 / 吉田宏亮、山口さち子、奈良由美子、小島原典子	日本リスク学会 第 37 回年次大会	2024年11月16日	
		リスクコミュニケーションの基本と要点	東京都病院協会 令和 6 年度 幹部職員セミナー	2024年12月20日	
		次なる感染症危機への備え～新しい政府行動計画が目指すもの～有事に即応できるリスクコミュニケーションを目指して	内閣感染症危機管理統括庁主催シンポジウム	2025年1月10日	
	山内 豊明	救急救命士を対象とした呼吸音に関する教育効果の検証 / 平岩竜之介、山内豊明	第 27 回日本臨床救急医学会総会・学術集会	2024年7月20日	
		充実した看護学実習カンファレンスを構成する要素 - デルファイ法を用いた調査研究 - / 渡邊佳奈、山内豊明	一般社団法人日本看護学教育学会第 34 回学術集会	2024年8月20日	
心理と教育	岩崎 久美子	フランスの学校図書館 ドキュメンタリスト教員のキャリア形成 の現状	公開研究会「学校図書館司書教諭養成の持続的質向上の基盤形成」	2024年7月28日	
		成人学習におけるスピリチュアリティ：人生の意味の探究	仙台白百合女子大学カトリック研究所 2024 年度オンライン・シンポジウム：キャリアとスピリチュアリティ	2024年8月10日	
		おとなを教えること：成人学習理論から見る社会人学生の学びの特徴	東京都立産業技術大学院大学 FD フォーラム	2024年9月4日	
		大人の学びへの招待	朝日新聞 Re ライフプロジェクト読者会議プレミアムトーク	2025年1月18日	
	櫻井 直輝	政令市議会議員の政策関心の中での教育政策ー一般質問の量的テキスト分析に基づいてー / 櫻井直輝、阿内春生	日本教育学会第 83 回大会	2024年8月29日	
	進藤 聡彦	「思考力・判断力・表現力」を捉える教育心理学の視点ー「思考力」の育成と評価に焦点を当ててー / 楠見孝、工藤与志文、南風原朝和、小林一人、進藤聡彦	日本教育心理学会研究委員会企画シンポジウム	2024年5月15日	
		ルールの機能的側面の教授が問題解決に及ぼす効果 (1) / 佐藤誠子、工藤与志文、進藤聡彦	日本教授学習心理学会第 20 回年会	2024年7月6日	
		ルールの機能的側面の教授が問題解決に及ぼす効果 (2) / 工藤与志文、佐藤誠子、進藤聡彦	日本教授学習心理学会第 20 回年会	2024年7月6日	
		経済事象に関する不十分な認識と洗練された認識の形成 / 進藤聡彦、佐藤誠子、舩田弘子、工藤与志文	日本教授学習心理学会第 20 回年会	2024年7月7日	
		学校で学ぶ知識の機能に対する大学生の認識ー「知識機能観」尺度構成の試みー / 佐藤誠子、進藤聡彦、工藤与志文	日本教育心理学会第 66 回総会	2024年9月14日	
	橋本 鈺市	実務家教員養成課程での学びと成果ー修了生調査の結果からー / 日下田岳史、谷村英洋、小島佐恵子、橋本鈺市	日本教育社会学会第 76 回大会 (信州大学)	2024年9月13日	
		大学と学校教育支援企業の業務連携の動向 / 谷村英洋、小島佐恵子、丸山和昭、日下田岳史、橋本鈺市	大学教育改革 フォーラム 2025in 東海 (名古屋大学)	2025年3月8日	
	橋本 朋広	心理臨床に活かすスピリチュアリティ / 松田真理子、大村哲夫、井原裕、橋本朋広、瀧口俊子	日本心理臨床学会第 43 回大会自主シンポジウム	2024年9月28日	
	村松 健司	一般社団法人日本遊戯療学会第 29 回大会シンポジウム「世界のプレイセラピスト養成状況」司会	一般社団法人日本遊戯療学会第 29 回大会	2024年6月29日	
		児童養護施設におけるスタッフの離職要因の分析 / 村松健司、坪井裕子、塩谷隼平、波多江洋介、樋口亜瑞佐	日本虐待防止学会第 30 回学術集会かがわ大会	2024年12月1日	
		児童養護施設の高機能化に関する研究 (1)ーケアニーズの高い子どもの実態把握 / 塩谷隼平、樋口亜瑞佐、坪井裕子、波多江洋介、村松健司	日本虐待防止学会第 30 回学術集会かがわ大会	2024年12月1日	
		児童養護施設の高機能化に関する研究 (2)ー施設の意識と独自の取り組みについて / 樋口亜瑞佐、塩谷隼平、坪井裕子、村松健司、波多江洋介	日本虐待防止学会第 30 回学術集会かがわ大会	2024年12月1日	
	森 津太子	認知バイアスの経験と二重過程モデル：認知バイアス・アセスメント尺度 80 (CBA-80) と認知的熟慮性検査 (CRT) の成績の関係 / 森津太子、高比良美詠子、池田まさみ、宮本康司	日本社会心理学会第 65 回大会	2024年8月31日	
		認知バイアス・アセスメント尺度 (CBA) の開発 (3)：80 種類の認知バイアスの経験の再検討 / 森津太子、高比良美詠子、池田まさみ、宮本康司	日本心理学会第 88 回大会	2024年9月6日	
		認知バイアス・アセスメント尺度 (CBA) の開発 (4)：80 種類の認知バイアスの経験と Well-being の関係の再検討 / 池田まさみ、森津太子、高比良美詠子、宮本康司	日本心理学会第 88 回大会	2024年9月6日	
		認知バイアス・アセスメント尺度 38 (CBA-38) の作成 (1)：因子構造および信頼性の検討 / 高比良美詠子、森津太子、池田まさみ、宮本康司	日本パーソナリティ心理学会第 33 回大会	2024年10月5日	
		認知バイアス・アセスメント尺度 38 (CBA-38) の作成 (2)：認知バイアスと Well-being の関係 / 森津太子、高比良美詠子、池田まさみ、宮本康司	日本パーソナリティ心理学会第 33 回大会	2024年10月5日	

2024年度研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

所 属	氏 名	テーマ、共著者	主催等	開催年月日
社会と産業	北川 由紀彦	東京における「山谷」の構造と動態（2）変化の諸相と「貧困管理」策との関係	日本都市社会学会大会	2024年9月5日
	桑田 学	経済学は〈自然〉をどう考えてきたか	黒正塾第 25 回寺子屋 春の部 歴史のなかの人間と生きもの・環境	2024年6月22日
		脱成長	脱炭素社会に向けての環境経済思想と消費生活指標プロジェクト研究会	2024年7月25日
	松井 美樹	ジョエル・ウェインライト、ジェフ・マン著『気候リヴァイアサン——惑星的主権の誕生』（堀之内出版、2024 年）合評会コメント Development and Role of Humanitarian Operations Standards and Guidelines for Epidemics in Japan(Minh Hue Nguyen,Yoshiki Matsui) Issues on Cost and Quality in Logistics Service(Yoshiki Matsui)	第 33 回マルクス研究会 The 34th Annual POMS Conference (POMS2024) 2024 Decision Sciences Institute Annual Conference	2024年8月10日 2024年4月29日 2024年11月24日
人間と文化	小二田 章	清末杭州留学生与杭州社会 —— 基于小山松溪《西湖折柳》的考察	第二届文明交流互鉴学术研讨会：世界与浙江	2024年9月7日
	近藤 成一	中国のそとを「地方」にする―「外域志」の視座から	大元大明研究会公開報告会	2025年3月11日
		中世の弘法大師信仰と善通寺	放送大学香川学習センター公開講演会	2024年6月8日
	杉森 哲也	径山復興に使われた日本の木材	第二届文明交流互鉴学术研讨会：世界与浙江	2024年9月7日
		津田梅子の生涯とその時代―新五千円券発行を機に考える―	公益財団法人興風会長寿大学講演会	2024年11月27日
	野崎 敬	古典文学の読み方・楽しみ方 / 亀山郁夫，野崎敬	紀伊國屋書店 Kinoppy & 光文社古典新訳文庫読書会 100 回記念対談	2024年4月26日
		谷崎潤一郎と大阪の夢——『祀』をめぐるって	日本近代文学館・夏の文学教室	2024年7月30日
		菅野昭正先生の思い出 / 野崎敬，塚本昌則	世田谷文学館「小説と映画の世紀展」(追悼・菅野昭正名誉館長) 記念対談	2024年9月26日
		翻訳すなわち世界文学の創造	東洋大学文学部国際コミュニケーション学科主催・国際シンポジウム「コミュニケーションの地平を拓く：多分野の交錯としての世界をいかに生きるか？」	2024年11月23日
	宮本 陽一郎	Disfiguring Rosebud: Citizen Kane and the Dark America(Yoichiro Miyamoto)	Dark Modernity: Modernism to Film Noir from East to West	2024年12月13日
情報	青木 久美子	Building Digital Communities: Leveraging the Metaverse for Enhanced Sense of Belonging in Distance Education(Kumiko Aoki)	7th World Conference on Research in Teaching and Education	2024年5月26日
		Enhancing Social Interaction in Distance Higher Education through a 2D Metaverse Virtual Campus(Kumiko Aoki)	eLearn2024	2024年10月8日
		Enhancing Engagement in Distance Learning: Overcoming Learner Isolation through ICT Tools(Kumiko Aoki)	The 32nd International Conference on Computers in Education (ICCE2024)	2024年11月28日
		Empowering Student-Led Engagement in the 2D Metaverse(Kumiko Aoki)	The 2024 6th International Conference on Modern Educational Technology (ICMET 2024)	2024年12月15日
	大西 仁	力覚フィードバックを用いた遠隔ロボットシステムにおける力調整制御～強化学習の適用～ / 大西仁，加藤広也，石橋豊，黄平国	電子情報通信学会コミュニケーションクオリティ研究会	2024年5月16日
	中谷 多哉子	音楽の主観的曲調に楽曲構造が与える効果 / 山口星香，小野貴史，大西仁	日本認知科学会第 41 回大会	2024年10月12日
		要求仕様の一貫性を向上させるための手法の提案：ユースケース記述から CATWOE 定義を導出する	情報処理学会ソフトウェア工学研究会要求工学ワークショップ in 新潟	2024年5月30日
		要求工学の将来	情報処理学会ソフトウェア工学研究会ウィンターワークショップ in 下関	2025年1月10日
		大規模言語モデルを要求仕様書の品質改善にどう役立てるか	情報処理学会ソフトウェア工学研究会要求工学ワークショップ in 愛媛	2025年2月26日
	森本 容介	学習支援システムアーキテクチャ ELECOA における学習状態更新処理の通信回数削減 / 森本容介，仲林清	教育システム情報学会 2024 年度第 1 回研究会	2024年5月18日
自然と環境	柳沼 良知	Development and evaluation of a learning support site at the Open University of Japan / Yosuke Morimoto, Tomokazu Yasuike, Masahiro Kumabe, Tomotsugu Kondo	The 37th AAOU Annual Conference 2024	2024年10月16日
		学習分析のためのログデータに関する考察 / 森本容介，古川雅子	MoodleMoot Japan 2025	2025年3月1日
	石崎 克也	講義映像のマイクロコンテンツ化手法の検討 / 古川雅子，柳沼良知	電子情報通信学会技術研究報告，Vol.124, No.205, pp.1-4	2024年10月1日
		Value distribution theory and complex difference equations(Ishizaki Katsuya)	2nd Analysis Mathematica Conference, R\`enyi Institute Budapest, Hungary,	2024年7月30日
		Complex oscillation results for solutions of linear differential equations(Ishizaki Katsuya)	30th International Conference on Finite or Infinite Dimensional Complex Analysis and Applications, Tohoku University Sendai	2024年8月22日
		加藤 和弘	The 29th Biennial Conference of the Asian Association for Biology Education	2024年10月13日
	安池 智一	Diatom-based STEM education for problem solving in global river environmental issue(Mayama Shigeki,Karthick Balasubramanian,Utkarsha Tikhole,Kazuhiro Katoh,Hiroshi Omori,Asuka Kumagai,Kumiko Kosakai,Hiroko Sano)	39th Symposium on Chemical Kinetics and Dynamics	2024年6月14日
		Control of Chemical Reactions by Strong Coupling between Plasmon Nanocavities and Molecules(Tomokazu Yasuike)	第 18 回分子科学討論会（高校生による理科研究発表特別セミナー）	2024年9月21日
		分子科学へようこそ 小さな分子が描く大きな未来	ISSP International Workshop “Materials Science of Solids and Surfaces using Radiation Field Controlled in Time/Space Domain”	2024年10月29日
		Chemical Reaction Modification by Strong Coupling between VUV Plasmon Nanocavities and Molecules(Tomokazu Yasuike)		

2024年度研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

所 属	氏 名	テーマ、共著者	主催等	開催年月日
公認心理師教育推進室	桑原 知子	令和型不登校をめぐるって——ユング心理学からの理解	日本ユング心理学会 第 12 回 大会	2024年6月1日
		女性たちの『社会交流認識』の交流秘史（基調講演 湯澤紀子）指定討論者	日本ユング心理学会 第 12 回大会	2024年6月2日
		クライアントの『表現』としての、【語り】【行動】【外見】【イメージ】【主訴】など—セラピストはそれらをどのように受け取るのか—	日本箱庭療法学会 第 1 回 全国研修会 分科会	2024年7月21日
		事例研究発表 指定討論者（発表者 西出隆紀） 講師 事例検討 2 自主シンポジウム 指定討論者（木村悠人 企画） ワークショップ講師 イメージを扱う心理療法の「開く力」と「閉じる力」 一箱庭・夢・描画・ロールシャッハテストなど— 事例研究発表 指定討論者（発表者 波多野玲奈）	日本心理臨床学会第 43 回大会 日本ユング心理学会 第 11 回 研修会 日本心理臨床学会第 43 回大会	2024年8月24日 2024年9月8日 2024年10月6日
	伊藤 匡	「1 対 1」から「チーム」の心理臨床へ—連携のさまざまなイメージを考える—	日本箱庭療法学会第 37 回大会	2024年10月12日
		入院加療により暴言暴力の軽減がみられた中学生男子事例 — 2 回のロールシャッハテストの報告—	日本箱庭療法学会第 37 回大会	2024年10月13日
		公認心理師養成における実習に何を求めるか —心理実習・心理実践実習受け入れ施設・大学・心理臨床家の対話— / 金丸隆太，伊藤匡，江原勝久，館野由美子，伊東孝郎，中村葉々子	日本箱庭療法学会 第 2 回 全国研修会 分科会	2025年2月16日
		ネット社会のくわたし>は何処に——拡張現実時代の自伝的記憶の拠り所	日本箱庭療法学会 第 2 回 全国研修会 全体会 包括システムによる日本 ロールシャッハ学会	2025年2月16日 2024年7月28日
北海道 SC	山田 義裕	コモンズとしての環境と民衆の平和	日本心理臨床学会第 43 回大会自主シンポジウム	2024年10月6日
			放送大学北海道学習センター アカデミック・カフェ（公開講演会）	2024年8月31日
山形 SC	山本 陽史	歌舞伎とはどんな演劇か	放送大学北海道学習センター アカデミック・カフェ（公開講演会）	2025年2月1日
群馬 SC	工藤 貴子	Experimental and Theoretical Studies on Synthesis, Structures, and Transformations of Ten-Membered Cyclodecatetraene Derivatives Including Two Gallium Atoms(Takako Muraoka,Hyuga Furukawa,Masayoshi Ikeda,Kanako Kobayashi,Kenta Fujiwara,Takako Kudo)	30th International Conference of Organometallic Chemistry (ICOMC)	2024年7月1日
埼玉 SC	川又 伸彦	Theoretical study of Si/C mixed analouges of Platonic hydrocarbons(Tamotsu Uchiyama,Taiji Nakamura,Miyabi Hiyama,Takako Kudo)	Symposium for Reaction Path Search	2024年9月17日
		ケイ素・炭素混合多面体化合物の理論的研究 / 内山保，中村泰司，樋山みやび，工藤貴子	2024 年度 第 28 回ケイ素化学協会シンポジウム	2024年11月8日
		憲法異議の史的展開 — 1818 年バイエルン王国の憲法異議成立史を中心に—	日本比較法研究所 憲法裁判研究会	2025年3月21日
		身の回りの色と光を理解する	のいちコミュニティカレッジ	2025年2月28日
石川 SC	千木 昌人	タイ政治の脱民主化とタックシンの政界復帰	日本タイ学会研究大会	2024年7月7日
京都 SC	玉田 芳史	タイ式民主主義の浮き沈み	東南アジア学会第 106 回研究大会	2024年12月7日
奈良 SC	井上 容子	STUDY OF VISUAL ENVIRONMENT EVALUATION USING HMD AND 360-DEGREE VIDEOS: OMPARISON OF FIELD EXPERIMENT AND VR EXPERIMENT AND EFFECTIVENESS OF LANDSCAPE EVALUATION USING VR(Kana Nagayama,Jaeyoung Heo,Youko Inoue)	Proceedings of The 14th Asia Lighting Conference	2024年8月22日
		AGE GROUP COMPARISON ON THE INFLUENCE OF THE RATE OF CHANGE IN ILLUMINATION AND COLOR TEMPERATURE ON THE DISCOMFORT RATE OF THE LIGHTING ENVIRONMENT(Yurine Minaoka,Jaeyoung Heo,Youko Inoue,Ayano Nakamura)	Proceedings of The 14th Asia Lighting Conference	2024年8月22日
		STUDY OF LIGHTING METHOD CONSIDERING RESIDENTS' CIRCADIAN RHYTHMS (PART2)-AGE GROUP COMPARISON OF IMPRESSIONS OF LIGHTING AND HEART RATEIN THE MORNING AND EVENING(JINGRU SHEN,Jaeyoung HEQ,Youko Inoue)	Proceedings of The 14th Asia Lighting Conference	2024年8月23日
		居住者の概日リズムに配慮した照明手法の検討（その 2）朝晩における照明に対する印象と心拍数の年齢層比較 / 沈京如，許載永，井上容子	日本建築学会学 2024 年度大会 学術講演梗概集 環境工学	2024年8月28日
	深見 公雄	作業環境における生活行為を考慮した適正照明手法に関する研究（その 2）作業性についての評価と年齢層による影響 / 中村彩乃，許載永，井上容子	日本建築学会学 2024 年度大会 学術講演梗概集 環境工学	2024年8月29日
		季節による心理変化を考慮した適切な照明手法に関する研究（その 2）秋季冬季の若齢者と高齢者の比較 / 萩尾みなみ，許載永，井上容子	日本建築学会学 2024 年度大会 学術講演梗概集 環境工学	2024年8月29日
		年齢層と生活行為に配慮した照明の適正化に関する研究（その 8）照度・色温度単独変化及び同時変化における許容率の年齢層比較 / 皆岡由梨音，許載永，井上容子	照明学会全国大会講演論文集	2024年9月11日
		A Study on Appropriate Lighting Methods Considering Seasonal Psychological Changes: For young people(Minami Hagio,Jaeyoung Heo,Youko Inoue)	Proceedings of The 14th International Symposium on Architectural Interchange in Asia (ISAIA)	2024年9月11日
高知 SC	深見 公雄	Study of Lighting Method Considering Residents' Circadian Rhythms(JINGRU SHEN,Jaeyoung HEQ,Youko Inoue)	Proceedings of The 14th International Symposium on Architectural Interchange in Asia (ISAIA)	2024年9月11日
		薬や毒を作る海洋微生物 ～海は遺伝子資源の宝庫！～	放送大学高知学習センター学友同窓会公開講演会	2024年4月13日
		海洋深層水の多段利用の現状とその課題 / 深見公雄，大貫麻子，鈴木達雄，鳩間用一，山田勝久，山本浩	海洋深層水利用学会全国大会	2024年10月17日
		海洋深層水の“真相”～その有効利用と大きな潜在力～	幡多地区公開講演会	2024年11月5日
		海の生態系はこんなに面白くて大切！～人類の未来を拓く海の役割～	高知県高坂生涯大学 A 組講義	2025年2月20日
		海の生態系はこんなに面白くて大切～人類の未来を拓く海の役割～	高知県高坂生涯大学 I 組講義	2025年3月7日

2024年度研究成果の発表・普及【受賞】				
所 属	氏 名	受賞内容	受賞年月	
生活と福祉	戸ヶ里 泰典	HIV陽性者が抱える慢性疾患および心身の自覚症状の実態 / 優秀演題賞	2024年11月	
		秀逸査読者賞	2024年8月	
心理と教育	小林 祐紀	三角ロジックシートの活用初期における児童の活用に関する意識と表出の傾向 / AI時代の教育学会第6回年次大会 優秀研究賞 (石井芳生,小林祐紀,佐藤幸江,中川一史)	2024年9月	
		継続的に単元内自由進度学習を実施した際の学習方法に関する児童の意識 / AI時代の教育学会第6回年次大会 優秀研究賞 (白土瑞樹,小林祐紀,北濱康裕,西岡遼,岩崎啓子,小内慶太,中川一史)	2024年9月	
情報	辻 靖彦	ICT利活用教育の導入による期待と効果認識の現状と大学規模別の分析 / 最優秀ポスター賞 / 2024年度年次大会 (辻靖彦,稲葉利江子,酒井博之,平岡斉士,伏木田稚子,藤岡千也,重田勝介)	2025年3月	
自然と環境	安池 智一	Nonorthogonal basis adapted parameter-free complex absorbing potential and its application to open-boundary cluster model / Selected Paper in BCSJ 97(11)(Kosuke Imamura,Tomokazu Yasuike,Hirofumi Sato)	2024年12月	
東京足立SC	最上 善広	2024年度動物学会論文賞	2024年9月	
徳島SC	橋爪 正樹	待機状態IC の入力配線検査を行う バウンダリスキャン用コントローラの試作 / アカデミックプラザ賞 (徳島大学大学院創成科学研究科,鶴岡蒼久,徳島大学大学院社会産業理工学研究部,四柳浩之,放送大学徳島学習センター,橋爪正樹)	2024年6月	

2024年度研究成果の発表・普及【その他】				
所 属	氏 名	題名、共著者	誌名	出版年月
生活と福祉	川島 聡	障害者権利条約12条にみるパラダイム転換	ジュリスト第1596号	2024年4月
		障害と法	法律時報第96巻5号	2024年4月
		インタビュー	山陽新聞	2024年4月
		発達障害のある人への差別の禁止	女性展望	2024年9月
		警備業法の違憲性：名古屋高裁判決の意義と課題	国際人権第35号	2024年11月
		事業者の合理的配慮義務化にあたり差別とは何かを改めて考える	福祉労働第176号	2024年11月
		筋力回復リハビリテーションにおけるかけ声効果 / 川原靖弘, 真下英明	Medical Science Digest	2024年11月
		田城 孝雄	医療経済研究	2024年10月
	奈良 由美子	感染症危機における リスクコミュニケーション	月刊公衆衛生情報（日本公衆衛生協会）	2024年7月
		リスクコミュニケーションの基本と実践	損害保険研究	2025年2月
	山内 豊明	(書評) 看護教員のための問題と解説で学ぶ教育指導力トレーニング (監修：佐藤浩章 編集：大串晃弘 / 発行：医学書院)	看護教育	2024年4月
		(書評) 訪問看護師による在宅療養生活支援を可視化する希望実現モデル (編著：川村佐和子 / 発行：医学書院)	看護教育	2024年6月
心理と教育	小林 祐紀	情報活用能力の育成と小学校段階のプログラミング教育	学習情報研究	2024年8月
		学習者が振り返りに取り組む際に参考にする支援の特徴－小学校国語学習者用デジタル教科書を活用した第5学年の事例研究－ / 小内慶太, 小林祐紀, 岩崎啓子, 北濱康裕, 白土瑞樹, 西岡遼, 中川一史	日本デジタル教科書学会 第13回年次大会	2024年8月
		三角ロジックシートの活用初期における児童の活用に関する意識と表出の傾向 / 石井芳生, 小林祐紀, 佐藤幸江, 中川一史	AI時代の教育学会第6回年次大会発表集録	2024年9月
		バイモーダル・テキストの創作における主題表現の視点を持った高校生の意味生成のプロセスの概要に関する一考察 / 石田年保, 小林祐紀, 佐藤幸江, 中川一史	AI時代の教育学会第6回年次大会発表集録	2024年9月
		適応学習教材の教授手法の検討－異分母分数加減の習熟に用いるA社のデジタルドリルに着目して－ / 津下哲也, 小林祐紀, 佐藤幸江, 中川一史	AI時代の教育学会第6回年次大会発表集録	2024年9月
		総合的な学習（探究）の時間における STEM/STEAM 教育に関する実践研究の動向 / 岩崎有朋, 中川一史, 佐藤幸江, 小林祐紀	AI時代の教育学会第6回年次大会発表集録	2024年9月
		継続的に単元内自由進度学習を実施した際の学習方法に関する児童の意識 / 白土瑞樹, 小林祐紀, 北濱康裕, 西岡遼, 岩崎啓子, 小内慶太, 中川一史	AI時代の教育学会第6回年次大会発表集録	2024年9月
		中学校教員のチャットツールの利用に関する意識調査－Google Chat の各機能の認知と校務との関連に関する予備調査－ / 黒羽諒, 富樫大輔, 小林祐紀	AI時代の教育学会第6回年次大会発表集録	2024年9月
		中学校国語科における生成 AI を活用したチャットボットの開発と試用－学習活動「振り返り」の充実を目指して－ / 富樫大輔, 伊藤智之, 黒羽諒, 小林祐紀	AI時代の教育学会第6回年次大会発表集録	2024年9月
		情報活用能力育成を重視する学校の教員における学習指導に関する意識の特徴 / 小林祐紀, 秋元大輔, 稲垣忠, 佐藤幸江, 佐和伸明, 渡辺浩美, 中川一史	日本教育メディア学会第31回年次大会発表収録	2024年10月

2024年度研究成果の発表・普及【その他】				
所 属	氏 名	題名、共著者	誌名	出版年月
心理と教育	小林 祐紀	生成 AI を組み込んだアプリを利用して学習者の振り返りを要約・分類する教育実践の試行 / 渡辺杏二, 小林祐紀, 森下純一, 鈴木広則, 中川一史	第50回全日本教育工学研究協議会全国大会東京都港区大会発表集録	2024年10月
		探究的な学びでのICTを生かし子どもの「自己効力感」を育む	学校とICT 2024年12月号	2024年12月
	村松 健司	児童養護施設におけるスタッフの離職要因の分析③	2023 三菱財団研究・事業報告書（CD-ROM）	2024年8月
社会と産業	白鳥 潤一郎	外務省――「特殊な官庁」の昭和・平成・令和	中央公論	2025年2月
人間と文化	大村 敬一	極北をかける「マシン」	月刊みんぱく 5月号	2024年5月
		「社会性の進化」を調査するための方法試案：もう一つの共約基盤（個体追跡法とは別の方法）を求めて	社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化学理論の新開拓（河合香史編）	2025年2月
	河原 温	ブリュージュ	建築知識	2024年4月
		新刊紹介 後藤里菜『沈黙の中世史－感情史から見るヨーロッパ』（ちくま新書, 2024）	史学雑誌	2025年2月
	小二田 章	『慈溪黄氏日抄分類』申明訳注その四 巻七一申明二 初任諸司差委事（続）第二任浙西提學司帳管 / 宋代史ゼミナール（近藤一成, 小二田章, 高井康典行, 見城光威, 梅村尚樹, 吉野正史, 金子孝太, 原瑠美	史滴	2024年12月
		黄興は早稲田の学生だった？ 僅かなかけらが示すもの	史滴	2024年12月
		『三山志』成書考	文化史研究	2025年3月
	杉森 哲也	新刊紹介 呉偉華著『近世大坂の御用宿と都市社会』	都市史研究	2024年10月
		第62回部落問題研究者全国集会の報告 分科会Ⅰ 歴史Ⅰ	人権と部落問題	2025年2月
	野崎 敏	解説（デイモン・ガルガット『約束』）	デイモン・ガルガット『約束』早川書房	2024年6月
		パリのカフェは自由の領土	kotoba	2024年7月
		アラン・ドロンさんを悼む――危うい色気 謎めいた翳り	読売新聞	2024年8月
		リュト・ジルベルマン『パリ19区サン＝モール通り二〇九番地』書評	日本経済新聞	2024年10月
		安堂ホセ『DŦOPIA』書評	共同通信	2025年1月
		あとがき礼賛	文藝春秋	2025年1月
		正義への道――追悼・鈴木道彦	群像	2025年1月
		勝手に文庫化希望！	読売新聞夕刊	2025年2月
		図書館をめぐる冒険	日本経済新聞	2025年3月
情報	辰己 丈夫	ツインデバイスとしてのASD型AIの開発と臨床応用 / 田実潔, 辰己丈夫, 井筒勝信, 中野由章	情報処理学会研究報告 (Web)	2024年5月
		大学入試を中心とした情報分野の学力評価手法の検討 ～EMIU 情報模試 2024 夏の実施とその結果～ / 植原啓介, 辰己丈夫, 谷聖一, 西田知博, 角田博保, 筑捷彦, 高橋尚子, 中野由章, 中山泰一, 萩原兼一, 坂東宏和, 安田豊	情報教育シンポジウム論文集	2024年8月
自然と環境	安池 智一 谷口 義明	「そんなの無理だよ」は研究の出発点？	Journal of Computer Chemistry, Japan	2024年9月
		天文学と『銀河鉄道の夜』	窮理 第26号	2024年9月
		「私たちの住んでいる銀河はなぜ銀河系と呼ばれるのか？」	天文月報 第118巻	2025年2月
公認心理師教育推進室	桑原 知子	辺縁から拓く心理臨床学	心理臨床学研究	2024年8月
		第11回大会大会企画ケースシンポジウム	臨床ユング心理学研究	2024年9月
	伊藤 匡	篠木論文へのコメント	明治大学心理臨床学研究	2025年3月
埼玉 SC	川又 伸彦	基本法 19 条 4 項の公権力と裁判所による文書提供判決	ドイツ憲法判例研究会編 ドイツの憲法判例Ⅴ	2025年3月
三重 SC	梅川 逸人	小豆ポリフェノールによるコレステロール吸収抑制作用に関する研究 / 小林映里奈, 栗谷健志, 後藤沙耶佳, 西尾昌洋, 中村昌弘, 梅川逸人	日本食品科学工学会大会講演集	2024年8月
京都 SC	玉田 芳史	タックシンの政治表舞台復帰とその影響（第2回）	タイ国情報	2024年5月
		2024 年上院議員選挙と国体護持	タイ国情報	2024年7月
		首相を失職させ、第一党を潰す司法	タイ国情報	2024年9月
		ペーテーション政権と政治2法	タイ国情報	2024年11月
		2025 年県自治体選挙と政党三つ巴戦	タイ国情報	2025年1月
		改憲の遅れと中国の圧力：ペーテーション政権の内憂外患	タイ国情報	2025年3月
島根 SC	出口 顕	タイ政治の脱民主化：司法と君主制	国際情勢紀要	2025年3月
		「自分の名前」とは 誕生と死結びつけるもの	朝日新聞朝刊「耕論」	2024年4月
		レヴィ＝ストロースへの眼差し：追悼川田順造	現代思想	2025年3月
岡山 SC	田仲 洋己	大会講演記録 西行の歌人的評価を巡って	西行学 / 西行学編集委員会 編	2024年9月

国際交流への取り組み

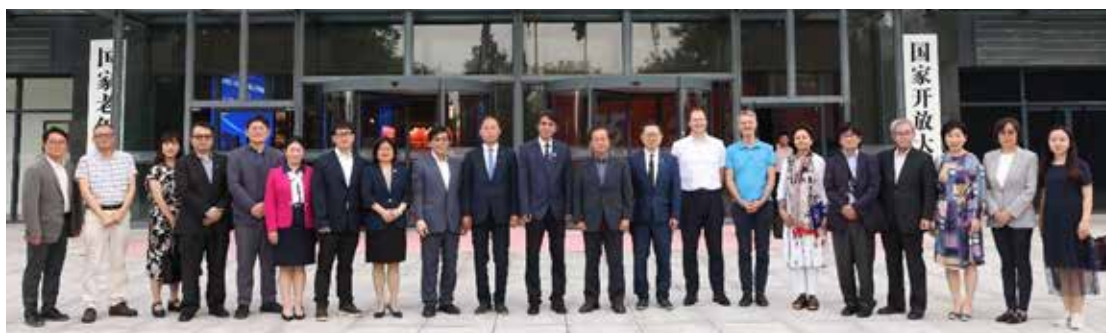
本学の国際交流事業は将来の可能性に向けて精力的に取り組んだ一年となった。協定校の教職員を研修生として受入れたほか、加盟団体による国際会議に現地参加した。また、協定校だけに限らず海外の大学や機関からの来訪を積極的に受け入れたことにより、相互交流を一層深めるとともに、本学の教

育研究推進に有意義な情報を収集することができた。さらには在外邦人等の受け入れに向けた検討を引き続き進めており、「在外邦人等に向けた海外受講モニター調査」を実施し、在外邦人等の受け入れのための制度設計を整えた。

第11回日中韓セミナー参加報告

中国北京の国家開放大学主催により、2024年6月12日から13日にかけて、第11回日中韓セミナーが「デジタル化によるオープン教育を通じた学習社会の構築（2024 International Conference on Building a Learning Society Through Digitalization of Open Education）」を全体テーマとし開催された。本セミナーは本学と国際交流協定を締結している中国国家開放大学(OUC)および韓国放送通信大学校(KNOU)の三校間で2009年から持ち回りで開催されている。

本学からは岩永雅也学長をはじめ6名が参加し、韓国放送通信大学校からはSonghwan Ko学長をはじめ6名が参加した。岩永雅也学長がデジタル技術の進歩とその利用による学習社会および生涯学習社会の実現可能性についての基調講演を行った。また、中川次世代教育研究開発センター長と青木教授が「Overview of the Next Generation Education Research Center at the Open University of Japan」のタイトルで講演を行った。2025年度の日中韓セミナーは韓国で開催される予定である。



日中韓セミナー参加者

ICDE Leadership Summit、AAOU年次大会への参加

2024年6月5日から7日にかけて、ICDE Leadership Summit 2024がジュネーブで開催された。本学からは、里見理事と大橋教授が参加した。“Ethical Leadership in the Age of AI: Rethinking Futures of Education(「AI時代における倫理的リーダーシップとは：教育の将来を再考する」)”というテーマのもとで、全体会や分科会が行われた。2024年度のICDE Leadership Summitはウェリントンで開催される予定である。

また、2024年10月15日から17日にかけて、37th Asian Association of Open Universities Annual Conference (AAOU2024)がパキスタンのAllama Iqbal Open University(AIOU)で開催された。オンライン参加者を含め、20か国・地域の遠隔教育関係者が参加し、本学から、岩永雅也学長をはじめ4名の教職員が参加した。2025年度のAAOU年次大会は北京で開催される予定である。

モンゴル国立大学教職員の本学における研修受け入れ

2024年7月25日から8月6日にかけて、モンゴル国立大学の教職員6名を研修生として受け入れ、オンライン教育やビデオコンテンツ制作の研修を行った。研修では、山田教授による教育DXについての講義や、青木教授、大橋教授による遠隔授業の実施方法等についての講義が行われた。また、制作部やオンライン授業制作委託先である株式会社アイフォスターの協力のもと、映像制作の見学を行った。研修生は2週間の研修成果を動画コンテンツにまとめ、最終日にコンテンツ発表会を行った。発表会には高橋理事長、岩永学長をはじめ多くの役員、教職員が参加し、大変有意義な研修となった。



モンゴル国立大学発表会参加者

2024年度放送大学国際シンポジウムの開催

2024年12月4日に放送大学学園附属図書館AVホールでシンポジウムを開催し、12月5日にはインドネシア・テルブカ大学の学生との座談会が行われた。シンポジウムでは「国境・アイデンティティを超える公開高等教育」英語名=OUJ Symposium: Open Higher Education beyond Borders and Identitiesをテーマとし、テルブカ大学副学長Dr. Rahmat Budiman氏とティルブルク大学教授Prof. Kutlay Yagmur氏を講演者として招いた。対面・Zoomあわせて約280名が参加した。座談会ではテルブカ大学のBudiman副学長と学生5名を参加者として招き、放送大学の役員、多くの教職員と意見交換が行われた。ここでは、テルブカ大学に入学した動機や学習環境についてなどのトピックについて活発な議論が行われた。2日間を通して、学生、教員からも活発な質疑応答がなされ、大変有意義なシンポジウムとなった。



国際シンポジウム参加者

在外邦人等への教育サービスの提供を検討

本学ではインターネットを利用した単位認定試験を導入したことにより、日本国外からも本学のコンテンツを受講できる環境が整いつつある。これに加え、創設以来約40年間に渡り築き上げてきた質の高い遠隔教育・生涯学習の強みを活かし、在外邦人への教育サービス提供の検討を開始した。昨年度に引き続き、今年度も在外邦人等に対しモニター調査を実施した。1学期に35の国・地域から101名、2学期には37の国・地域

から152名のモニターが参加した。また、これらを踏まえて、2026年度からの海外在住学生受入れに向けて、授業配信に必要な著作権処理や各種郵送等の課題および学内における業務分担の整理を行い、受入れにかかる制度を整えた。さらに、2026年度の募集開始に備えて広報活動の準備を行った。

本学との協力交流協定を締結している海外の大学(2025年3月時点)		
機関名	国・地域	締結年月日
Royal University of Bhutan ブータン王立大学	ブータン	2017/8/18
Universidade Federal de Mato Grosso (UFMT) マトグロッソ連邦大学	ブラジル	2018/9/28
Athabasca University アサバスカ大学	カナダ	1992/9/19
The Open University of China 国家開放大学	中国	2009/5/7
Hellenic Open University ギリシャ公開大学	ギリシャ	2023/9/26
Korea National Open University 韓国放送通信大学校	韓国	2008/9/22
National University of Mongolia (NUM) モンゴル国立大学	モンゴル	2019/10/15
Universitat Oberta de Catalunya カタルーニャ公開大学	スペイン	2014/8/1
National Open University 国立空中大学	台湾	1993/4/16
Sukhothai Thammathirat Open University (STOU) スコータイ・タマティラート公開大学	タイ	2012/5/15
Anadolu University アナドル大学	トルコ	2024/1/26
The Open University オープン・ユニバーシティ	英国	2008/8/26
University of Maryland Global Campus メリーランド大学グローバルキャンパス校	米国	2009/11/15

教員による社会貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。

日本学術会議

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという考えのもと、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、政府から独立した「特別の機関」として1949年に設立された。

日本学術会議の役割は、主に①政府・社会に対して日本の科学者の意見を直接提言、②市民社会との対話を通じて科学への理解を深める、③地域社会の学術振興や学協会の機能強化に貢献、④日本を代表するアカデミーとして国際学術交流を推進である(日本学術会議ホームページより抜粋)。

本学の教員は、多岐にわたる社会貢献活動を行っており、その中から活動の一部を紹介する。

本学の教員は、下表の会員加入状況が示すように連携会員に選ばれ活動に貢献している。

日本学術会議での会員(連携会員)加入状況			
所 属	氏 名	職 名	専門分野
社会と産業コース	玉野 和志	教授	社会学
社会と産業コース	山岡 龍一	教授	政治学・哲学
大阪SC	金水 敏	所長	言語・文学

学会、国、地方公共団体等での活動

所 属 氏 名	団体名、役職名
生活と福祉	
朝倉 富子	公立研究開発法人科学技術振興機構内 井上春成賞選考委員会 委員 公益財団法人東洋食品研究所 研究助成選考委員
井出 訓	社会福祉法人 桜秀会 理事 北海道認知症グループホーム協会 外部理事 日本老年看護学会 評議員 日本老年社会科学会 評議員 日本老年看護学会 査読委員 日本老年看護学会 評議員 日本老年社会科学会 評議委員 日本老年社会科学会 査読委員 日本認知症ケア学会 評議員、監事
川島 聡	国際人権法学会 理事 障害学会 理事、アクセシビリティ委員会委員長 日本障害法学会 理事、企画委員会委員長 全国高等教育障害学生支援協議会 理事、法務委員会委員長 岡山県人権政策審議会 副会長 文部科学省 障害のある学生の修学・就職支援促進事業委員会 委員 日本学生支援機構 障害学生支援委員会 委員、専門部会長
川原 靖弘	日本学術会議 総合工学委員会科学的知見の創出に資する可視化分科会細胞一身体可塑基盤からの自分を知り育てる科学知見創出に資する可視化小委員会 委員 電子情報通信学会行動と認知時限研究専門委員会副委員長 人間情報学会理事，編集委員

所 属 氏 名	団体名、役職名
下夷 美幸	日本家族社会学会理事
関根 紀子	日本体力医学会 プログラム委員会委員 日本体力医学会 学術委員会委員 日本体力医学会 評議員 文部科学省 体力・運動能力調査に関する検討委員会協力員
田城 孝雄	日本在宅利用連合学会 理事 日本医療マネジメント学会 評議員 日本医療・病院管理学会 評議員 厚生労働省老健局 委員会委員 豊島区在宅医療推進会議 会長 文京区地域医療連携推進協議会 副会長 文京区地域医療連携推進協議会在宅医療検討部会 部会長 文京区地域包括ケア推進委員会医療介護連携専門部会部会長 内閣府地方創生推進事務局 地域活性化伝道師
戸ヶ里 泰典	日本エイズ学会 代議員 日本健康教育学会 編集委員長 日本社会医学会 評議員 日本健康教育学会 理事 日本健康教育学会代議員 日本創傷・オストミー失禁管理学会査読委員

学会、国、地方公共団体等での活動

所 属 氏 名	団体名、役職名
奈良 由美子	厚生労働省 厚生科学審議会 臨時委員 環境省 エコチル調査戦略広報委員会 委員 東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略委員会及び社会機能部会部会長 日本原子力研究開発機構 経営顧問会議 委員 東京都新型コロナウイルス感染症医療体制戦略ボード 構成員 内閣官房 サイバーセキュリティ戦略本部 重要インフラ専門調査会 委員 内閣府「防災スペシャリスト養成」企画検討会 委員 内閣官房 新型インフルエンザ等対策推進会議 委員 環境省中央環境審議会 臨時委員 東京 iCDC（東京感染症対策センター）専門家ボード リスクコミュニケーションチーム チーム長 土木学会原子力土木委員会 リスクコミュニケーション小委員会 委員長 名古屋大学 客員教授 日本リスクマネジメント学会 理事 社会・経済システム学会 理事 東京都感染症予防医療対策審議会 委員 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター、「科学と社会」推進部「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」プログラム総括補佐
山内 豊明	日本看護学教育学会 理事・評議員 日本医療機能評価機構 教育研修事業運営委員会 委員 厚生労働省 医道審議会 委員 日本臨床看護マネジメント学会 理事 日本看護管理学会 評議員 日本看護科学学会 評議員 日本学術振興会 専門委員 日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業専門分析班 委員 日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業総合評価部会 委員 日本看護医療学会 理事 文部科学省 科学技術・政策研究所 科学技術予測・政策基盤調査研究センター 専門調査員 日本医療マネジメント学会 理事
山田 知子	コープみらい 理事（学識経験者） 社会福祉法人サンフレンズ 社会福祉法人理事、評議員 日本社会福祉学会 日本社会福祉学会関東ブロック運営委員
心理と教育	
岩崎 久美子	公益財団法人育てる会 評議員 内閣府 構造改革特別区域推進本部評価・調査委員会委員 日本生涯教育学会 理事 東京都武蔵野市 教育委員会委員 独立行政法人国立科学博物館 独立行政法人国立科学博物館評価有識者会会委員 千葉県千葉市 第15期千葉市生涯学習審議会委員 神奈川県川崎市 政策評価審査委員会委員 筑波大学 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（個別最適な学習環境の構築に向けた研究開発事業）評価委員会委員 千葉県千葉市 新基本計画審議会委員 千葉県教育委員会 スーパーサイエンスハイスクール（千葉県立長生高等学校）運営指導協議会委員

所 属 氏 名	団体名、役職名
岩永 雅也	一般社団法人 社会調査協会 理事長 学校法人十文字学園 十文字学園女子大学外部評価委員 足立区文化・読書・スポーツ推進会議 会長 筑波大学附属駒場中・高等学校 学校評議員
苑 復傑	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構 客員研究員 東アジア共同体評議会 東アジア共同体評議会 有識者議員
小林 祐紀	常陸太田市 常陸太田市 GIGA スクール構想推進委員会アドバイザー 那珂市教育委員会 那珂市学校教育情報化推進委員 日本教育工学協会（JAET）理事 AI時代の教育学会 理事 年次大会委員長 日本デジタル教科書学会 理事（広報委員長） 日本教育メディア学会 理事（年次大会委員長）
櫻井 直輝	豊田市教育行政計画審議会学校規模の適正化に関する専門部会 部会長 豊田市教育行政計画審議会 委員 日本教育経営学会 国際交流委員会委員兼幹事 千葉県教育委員会 教育委員 地方公務員安全衛生推進協会調査研究委員会作業部会委員 大熊町奨学資金制度検討委員会 委員長 日本教育経営学会 紀要編集委員会編集幹事 豊田市学校規模適正化・適正配置検討委員会 委員
進藤 聡彦	日本教授学習心理学会 理事長 日本心理学諸学会連合 委員 日本教育心理学会 研究委員会副委員長 甲府市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会(計画部会長・施設審査部会長) 甲斐市 いじめ防止連携協議会（議長） 山梨県 教員のキャリアアップ研修審議委員会（委員長） 甲府市 こども計画策定支援等業務受託者選考審査委員会（委員） 山梨県 社会教育委員(同会議副議長・編集委員)
橋本 鉈市	日本高等教育学会 代議員
波田野 茂幸	立川市教育委員会 立川市就学支援等検討委員会委員 港区子ども家庭支援部 港区児童館等における障害児に関する協議会 会長
向田 久美子	日本パーソナリティ心理学会 理事 公益社団法人日本心理学会 地域別代議員
村松 健司	一般社団法人日本心理学諸学会連合 心理学検定局副局長 一般社団法人日本心理臨床学会 編集協力委員 一般社団法人日本心理学諸学会連合 理事 一般社団法人日本遊戯療法学会 理事長 東京都社会福祉協議会 カリキュラム委員 一般社団法人日本心理学諸学会連合 検定局常任運営委員 一般社団法人日本遊戯療法学会 第29回大会 大会長
森 津太子	日本パーソナリティ心理学会 常任理事（経常的研究交流委員会委員長） 日本心理学会 地域別代議員（関東）

学会、国、地方公共団体等での活動

所 属 氏 名	団体名、役職名
社会と産業	
桑田 学	経済学史学会 幹事 社会思想史学会非常任 幹事
白鳥 潤一郎	霞山会 講演企画委員会委員 外務省 外交記録公開推進委員会常任委員 日本国際問題研究所 国際政治史研究会委員
玉野 和志	日本社会学会 監事 社会調査協会 事務局長 コミュニティ政策学会 理事 地方自治学会 理事
原田 順子	公益財団法人 B（非公開） 授賞選考委員会 横浜市 横浜市物流等関連施設等指定管理者選定評価委員会 一般財団法人 A（非公開） 授賞選考委員会 人材育成学会 選挙管理委員会
松井 美樹	The Association of Supply Chain and Operations Management Vice President, Academic Division Committee ベトナム 国 家 大 学 Associate Editor, VNU Journal of Science: Economics and Business オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会論文誌エリア編集委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 学会賞審査委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 財務委員長 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 第 16 回全国研究発表大会実行委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 監査人
松原 隆一郎	毎日新聞社 毎日文化賞選考委員 国際日本文化研究センター 運営委員 東京都広告物審議会 委員 杉並芸術会館 運営評価委員会座長 毎日新聞 書評委員
柳原 正治	九州国際法学会理事長 日本国際法協会 研究企画委員会主任
山岡 龍一	政治思想学会 理事 日本イギリス哲学会 理事
人間と文化	
大橋 理枝	日本コミュニケーション学会 学術局運営委員(学会誌担当) 国際行動学会 理事 国際行動学会 年次大会企画委員
河原 温	都市史学会 常任委員 比較都市史研究会 編集幹事 メトロポリタン史学会 委員 公益財団法人史学会 理事
滝浦 真人	日本言語学会 学会賞選考委員長 日本言語学会 常任委員 日本語用論学会 評議員 国立国語研究所 運営会議 委員 文化審議会 国語分科会 国語課題小委員会 副査 文化審議会 国語分科会 国語課題小委員会 委員 日本言語学会 評議員
野崎 歓	サントリー文化財団 サントリー学芸賞選考委員(芸術・文学部門)
宮本 徹	中国出土資料学会理事 日本中国語学会 編集委員
宮本 陽一郎	筑波アメリカ文学会 会長

所 属 氏 名	団体名、役職名
情報	
青木 久美子	放送大学 次世代学習研究開発センター ユニットマネージャー 日本理容美容教育センター IT に関する検討会 委員
浅井 紀久夫	International Journal of Virtual and Personal Learning Environments Associate Editors
大西 仁	電子情報通信学会通信行動工学時限専門委員会 委員 The 12th International Conference on Computer and Communications Management Publicity Chair
近藤 智嗣	日本オープンオンライン教育推進協議会 理事 令和 6 年度「先導的大学改革推進委託事業」大学通信教育の実態及び教育の質向上等に関する調査研究（文部科学省委託事業）有識者会議委員
辰己 丈夫	情報処理学会 一般情報教育委員会 委員長 電子情報通信学会「技術と社会・倫理」研究専門委員会 委員長 情報処理学会 広報広聴戦略委員会 副委員長 情報処理学会 教科書委員会 委員 情報処理学会 情報処理教育委員会 委員 情報処理学会 初等中等教育委員会 委員 電子情報通信学会「技術と社会・倫理」研究専門委員会 副委員長 情報処理学会 一般情報教育委員会委員
辻 靖彦	日本教育工学会 ショートレター編集委員会 委員 教育システム情報学会関東支部 副支部長 教育システム情報学会関東支部 幹事 教育システム情報学会関東支部 役員 大学 ICT 推進協議会 (AXIES) ICT 利活用調査部会 研究員 教育システム情報学会 全国大会現地実行委員会 委員 Information and Technology in Education and Learning (ITEL) 編集委員会 委員
中川 一史	中央教育審議会初等中等教育分科会 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会 教科書・教材・ソフトウェアの在り方ワーキンググループ（委員） 中央教育審議会初等中等教育分科会 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会（委員） 文部科学省 GIGA スクール構想に基づく 1 人 1 台端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議（委員） 文部科学省 デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議（委員） 内閣府 青少年インターネット環境の整備等に関する検討会（座長代理） 教科書研究センター デジタル教科書に関する調査研究委員会（委員長）
中谷 多哉子	情報処理学会技術士委員会 主査 情報処理学会 企業認定審査委員 りそな中小企業振興財団 中小企業優秀新技術・新製品賞 専門審査委員 日本技術者教育認定機構 JABEE ソウル協定プログラム対応部会委員 ソフトウェア技術者協会 幹事 知能ソフトウェア工学研究会 研究専門委員会委員 プログラム委員：INSTICC 19th International Joint Conference on Software Technologies, ICSoft2024
広瀬 洋子	一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会 監事
伏見 清香	日本展示学会 理事 愛知県児童総合センター「2024 汗かくメディア」選考委員

学会、国、地方公共団体等での活動

所 属 氏 名	団体名、役職名
森本 容介	電子情報通信学会 教育工学研究専門委員会専門委員 教育システム情報学会 研究会委員会 委員 Member of ICOIE 2024 Programme Committee Member of Adjudication Committee of AAOU Best Paper Award 2024 Member of ICOIE 2025 Programme Committee Member of CELEBS2025 Programme Committee
山田 恒夫	一般社団法人大学 ICT 推進協議会 大学 ICT 推進協議会 学術・教育コンテンツ流通部会主査 日本オープンコースウェアコンソーシアム (JOCW) 監事 一般社団法人「オープンバッジ・ネットワーク」理事・審査委員長
自然と環境	
大森 聡一	文部科学省 教科用図書検定調査審議会専門委員 人事院 人事院 2024 年度国家公務員採用総合職試験 試験専門委員
加藤 和弘	千代田区 ちよだ生物多様性大賞選定委員会副座長 千代田区生物多様性推進会議 副座長 一般社団法人 環境情報科学センター 理事
岸根 順一郎	Journal of Physical Society of Japan 編集委員 固体物理 編集委員
安池 智一	分子科学会 第 18 回分子科学討論会優秀ポスター賞選考委員 (理論・計算分野) 分子科学会 第 18 回分子科学討論会優秀講演賞代表選考委員 (理論・計算分野) 理論化学会 理論化学討論会講演賞選考委員
公認心理師教育推進室	
桑原 知子	公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会 評議員
障がいに関する学生支援相談室	
林 徹	日本学術会議 連携会員
秋田 SC	
倉林 徹	秋田県第三セクターの運営状況評価に係る外部有識者委員会 委員 (委員長) 秋田県地方独立行政法人評価委員会 評価委員 (委員長) IEEE member
茨城 SC	
小野寺 淳	茨城地理学会 会長 茨城県教育委員会 (教育庁文化課) 文化財保護審議会委員 (2018 年 3 月より副会長, 2024 年 3 月 4 日より会長)
栃木 SC	
伊東 明彦	日本地震学会 学校教育委員
群馬 SC	
工藤 貴子	放送大学教育振興会 評議員 JST 世界で活躍できる研究者育成プログラム開発総合支援事業開発普及委員会 委員 ケイ素化学協会 理事
埼玉 SC	
川又 伸彦	さいたま市民大学運営委員会 委員 埼玉県立大学評価委員会 委員 上尾、桶川、伊奈衛生組合行政不服及び情報公開・個人情報保護審査会 委員 桶川市行政不服及び情報公開・個人情報保護審査会 委員 埼玉県和光市国民保護協議会委員 委員
東京足立 SC	
最上 善広	足立区 足立区生涯学習振興公社理事 東京都 東京都地方独立法人評価委員会委員

所 属 氏 名	団体名、役職名
神奈川 SC	
大谷 英雄	総務省消防庁 消防防災科学技術研究推進評価委員 総務省消防庁 危険物等事故防止対策情報連絡会主査 総務省消防庁 優良消防用設備等審査会委員 経済産業省 産業構造審議会委員
石川 SC	
千木 昌人	大学コンソーシアム石川 理事 小松市環境審議会 委員 石川化学教育研究会 会長
岐阜 SC	
野々村 修一	Grand RE2022 国際会議組織委員 国際クラブ 国際クラブ 理事 岐阜市 岐阜市中心市街地活性化委員会 委員長 岐阜県 地球温暖化対策実行計画懇談会会長 岐阜県 新エネ・省エネ推進会議 委員長 26th Int. Photovoltaic Science & Engineering Conference 組織委員 省エネ対策促進事業委託プロポーザル評価会議構成員 評価構成員 The 6th World Conference Photovoltaic Energy Conversion 組織委員会委員 - 実行委員会 Tutorial 委員会委員長 JST 国際科学技術協力推進事業「日本・中国・韓国 研究交流書類評価会 委員長 第 8 回「次世代の太陽光発電システム」シンポジウム, 実行委員長 21th Int. Photovoltaic Science & Engineering Conference, 財務委員長 24th Int. Conf. of Amorphous & Nanocrystalline Semiconductors, 総務委員長 JST 国際科学技術協力推進事業「日本・中国・韓国 研究交流書類評価会 委員 Renewable Energy International Conference and Exhibition 実行委員 5th Int. Conference on Hot-Wire CVD Process, 実行委員長
奈良 SC	
井上 容子	奈良県大規模小売店舗立地審議会 委員長 奈良県社会福祉総合センター整備検討会 委員長 日本建築学会 夜間景観 WG 委員 日本建築学会 景観色彩 WG 委員 日本建築学会 明視評価 WG 委員 日本建築学会 窓・開口部標準改訂 WG 委員 大阪市屋外広告物審議会 会長 日本建築学会 色彩設計法小委員会 委員 奈良県大規模小売店舗立地審議会 委員 一般社団法人奈良県建築士会 専攻建築士審査委員会 評議員 奈良県廃棄物処理施設設置検討委員会 委員 日本建築学会 視環境設計小委員会 委員 日本建築学会 司法支援建築会議 会員 寝屋川市景観審議会 委員 守口市建築審査会 委員 東大阪市営建替事業に係る事業者選定委員会 委員
岡山 SC	
田仲 洋己	公益財団法人 吉備路文学館 理事
高知 SC	
深見 公雄	国交省四国地方整備局 河川・溪流環境アドバイザー 海洋深層水利用学会 理事, 産公学連携推進委員会委員長 高知県伝統的特産品振興協議会委員・副委員長 国立大学法人高知大学次世代海洋資源研究者育成プロジェクト運営チーム

学会、国、地方公共団体等での活動

所 属 氏 名	団体名、役職名	所 属 氏 名	団体名、役職名
福岡 SC	久枝 良雄	長崎 SC	山下 敬彦
	九州大学 藤井徳夫賞 選考委員会委員		電気学会 社会連携委員会 全体会合 WG
	公益社団法人日本工学アカデミー 理事		電気学会 社会連携委員会 教養教育支援 WG
	文部科学省 学術変革領域研究 (A)「化学構造リプログラミング」評価委員		電気学会 有識者会議委員
	公益財団法人宗像ユリックス 評議員		電気協同研究会「架空送電用ポリマーがいし技術専門委員会」委員長
	公益社団法人日本工学アカデミー 九州支部理事		電気学会 論文委員会 (A 3グループ) 委員
	錯体化学会 研究公正倫理推進委員会 委員		一般社団法人 電気協同研究会「架空送電用ポリマーがいしの現状と今後の展望」委員会
	九州錯体化学懇談会 会長		電気学会 総務会議委員
	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 ビアレビューア		電気学会 理事・九州支部長
	九州大学 若手女性研究者・女子大学院生優秀研究者賞 (伊藤早苗賞) 選考委員会委員		

社会貢献活動

所 属 氏 名	社会貢献活動内容	所 属 氏 名	社会貢献活動内容
生活と福祉	川島 聡	高橋 秀明	東京家政大学大学院人間生活総合研究科 非常勤講師
	神奈川大学大学院法学研究科「障害法特講」非常勤講師		波田野 茂幸
	立命館大学大学院先端総合学術研究科 博士論文外部審査員		大東学園高等学校 学校精神保健コンサルタント
	戸ヶ里 泰典		港区子ども家庭支援部 港区児童館等における障害児への巡回相談講師
	順天堂大学大学院看護医療学研究科「応用統計学」講義		立川市教育委員会教育部教育支援課 教育相談事例検討会
	東京医科歯科大学教養部「スポーツ・健康科学」講義「健康生成論」担当		平塚市子ども教育相談センター 所内研修会
	東海大学医療技術短期大学 教員研究支援		東京都教育庁指導部特別支援教育指導課 東京都特別支援教育推進室 令和 6 年東京都障害のある児童・生徒の就学相談担当者講習会
	東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科高齢社会看護システム管理学 大学院「高齢社会看護システム管理学特論Ⅰ」講義		中野区子ども教育部保育園・幼稚園課 令和 6 年度中野区保育の質ガイドライン研修
	沖縄県立看護大学 大学院「ヘルスプロモーション・健康教育Ⅱ」講義		豊島区子ども家庭部 令和 6 年度豊島区子ども研修
	山梨県立大学 大学院「基礎看護学Ⅲ」講義		板橋区子ども家庭部保育運営課 令和 6 年度板橋区保育の質ガイドライン研修
	東京都立大学都市環境学部「健康社会論」講義		練馬区教育委員会事務局 こども家庭部 / 令和 6 年度 練馬区保育園研修 (園長・副園長対象)
	奈良 由美子		大東学園高等学校教職員メンタルヘルス研修会
心理と教育	山田 知子	村松 健司	東京都立しいの木特別支援学校 外部専門員(心理の専門家)
	社会福祉法人恩賜財団済生会 中央治験審査委員会委員		東京都立しいの木特別支援学校 学校連絡議会委員長
	杉並区社会福祉協議会 杉並区共同募金配分委員会委員長		東京都保健福祉財団 現代青年の特徴と育て方
	苑 復傑		東京都社会福祉協議会 児童養護施設における専門的対応とは
	一橋大学・森有礼高等教育国際流動化センター客員研究員		台東区立教育支援館 教育相談所内研修会 ケーススーパービジョン
	小林 祐紀		台東区立教育支援館 令和 6 年度学校教育相談講座「子供のこころの問題と家族 ～家族支援の視点から～」
	四日市市教育委員会 三重県四日市市「ICT コーディネーター及び情報化推進リーダー養成講座」教員研修会		東京都しいの木特別支援学校校内研修 障碍児・者の人権について 3
	田辺市教育委員会 リーディング DX スクール指定校に係る和歌山県田辺市立稲成小学校公開校内研修会		台東区教育委員会中堅教諭等向上研修 子供のこころの問題と家族 ～家族支援の視点から～
	行方市教育委員会 茨城県行方市令和 6 年度第 6 回 ICT 活用推進委員会		東京都社会福祉協議会 生活場面における子どもの理解と支援
	一般社団法人日本教育情報化振興会 2024 年度教育 DX 推進フォーラム パネルディスカッション「情報活用能力の肝は何か～情報活用能力ベーシックを視野に入れて～」		東京都社会福祉協議会 生活場面における子どもの理解と支援二日目
	櫻井 直輝		東京都江戸川区教育研究所所内研修会講師
	千葉県教育庁学習指導課 指導主事に求められる資質・能力 令和 6 年度指導室長会議・指導主事会議講演会		東京都社会福祉協議会 高機能化多機能化研修「生活場面における子どもの理解と支援」フォローアップ研修
	千葉県立野田中央高等学校 高校における DX の加速化 教員研修		東京都立大学オープンユニバーシティ 冬季講座「社会的養護と学校教育」
	2024 年 (第 33 回) 全国学校事務研究集会第 3 分科会研究分担者		

社会貢献活動

所 属 氏 名	社会貢献活動内容	所 属 氏 名	社会貢献活動内容
社会と産業	原田 順子	公認心理師教育推進室	桑原 知子
	大妻女子大学社会情報学部「経営組織論」非常勤講師		島根心理療法研究会講演
	李 鳴		三重県教育委員会 三重県中堅教諭等資質向上研修
	慶応義塾大学法科大学院 非常勤講師		三重県教育委員会 三重県教員研修会
	市川中央老壮塾 客家の父を通じて見た客家文化		応用心理カウンセラー協会 箱庭療法の実習
人間と文化	大橋 理枝		日本臨床心理士資格認定協会 自然・社会災害を生き抜き創生する一子どもの命と心に寄り添う臨床心理士への期待ー 第 32 回 心の健康会議
	放送大学 国境・アイデンティティを超える公開高等教育 国際シンポジウム		伊藤 匡
	放送大学 AI 時代における大学教育の転換と可能性 FD 講演会		中央区いじめ問題再調査委員会委員
	宮本 徹	障がいに関する学生支援相談室	角田 哲哉
	中央大学経済学部兼任講師		千葉県教育委員会開かれた学校づくり委員会 (四街道特別支援学校)
	東京大学東洋文化研究所・班研究「中国古代文献の成立に関する多角的研究」研究協力者		国立病院機構下志津病院研究倫理審査委員
	東京女子大学大学院人間科学研究科・現代教養学部非常勤講師		四街道市特別支援連携協議会委員
	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部非常勤講師		岩手 SC
情報	青木 久美子		西崎 滋
	TCCHAWAll.org Board of Directors		岩手県原発放射線影響対策本部放射線影響対策特命チームアドバイザー
	Asuka Academy 理事		いわて高等教育コンソーシアム運営委員会
	大西 仁		いわて高等教育コンソーシアム理事会
	朝日大学経営学研究科 博士論文審査		滝沢市ラジオメディカルセンター放射線監視委員会委員
	加藤 浩	宮城 SC	高橋 満
	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻		仙台市社会教育委員の会議 委員長
	辻 靖彦		千葉 SC
	日本女子大学人間社会学部教育学科 教育方法・技術 (中高) (非常勤講師)		高橋 浩之
	中谷 多哉子		習志野市 教育委員会委員
	情報処理学会 代表委員		石川 SC
	平岡 斉士		千木 昌人
	熊本大学大学院教授システム学専攻 熊本大学公開講座「インストラクショナルデザイン (入門編 / 応用編)		石川化学教育研究会 第 39 回石川地区中学校生徒徒化学研究発表会
	森本 容介	滋賀 SC	平井 肇
	情報処理技術者試験委員 情報処理安全確保支援士試験委員		タイ国チェンマイ・ラジャパット大学日本センター顧問
	数理・データサイエンス・AI 教育強化拠点コンソーシアム 放送大学責任者		滋賀県立高校と台湾の高校のスポーツ交流の助言・指導
	広瀬 洋子		島根 SC
	一般社団法人 全国高等教育障害学生支援協議会 監事		出口 顕
	NPO 法人 FirstStep : 引きこもり支援 理事		国立民族学博物館外部評価委員会委員運営参加・支援
	山田 恒夫		島根大学法文学部非常勤講師
	NPO 実務能力認定機構 理事		岡山県立大学非常勤講師
	国際 NPO「Global Learning Object Brokered Exchange (GLOBE)」, Business/Stewardship Council Member		山陰日本アイルランド協会会長運営参加・支援
	国際共同研究: eASEM プロジェクト (アジア欧州会合、生涯学習研究ポータル構築、白書作成プロジェクト) メンバー		島根県立大学看護栄養学部非常勤講師
	国際共同研究: ASEM 生涯学習ハブ (ASEM Education and Research Hub for Lifelong Learning, ASEM-LLL Hub) 研究ネットワーク investigator		島根県立松江江南高校運営協議会委員運営参加・支援
	e-Learning Awards フォーラム実行委員会委員	長崎 SC	山下 敬彦
	日本オープンオンライン教育推進協議会 (JMOOC) 事務局次長		長崎海洋産業クラスター形成推進協議会
自然と環境	大学 ICT 推進協議会 (AXIES) 研究員・国際連携室長		令和 5 年度潮流発電技術実用化推進事業 九電みらいエナジー 令和 5 年度潮流発電技術実用化推進事業開発検討会
	AAOU Asian MOOCs Steering Committee Member		九電みらいエナジー 令和 6 年度潮流発電技術実用化推進事業開発検討会 令和 6 年度潮流発電技術実用化推進事業
	一般社団法人 日本 IMS 協会 理事・運営委員会委員長・IMS Japan 賞選定委員長		
	石崎 克也	隈部 正博	安池 智一
	Zentralblatt MATH., Reviewer		立教大学 特別講義 11「分子の励起状態とさまざまな光機能」
	Aequationes Math., Editor		立教大学 応用物理化学特論 4
	Mathematical Review, Reviewer		
	Analysis Math., Editor		
	Mathmatical Reviews アメリカ数学会		
	東京大学 構造化学		
	立教大学 特別講義 11「分子の励起状態とさまざまな光機能」		
	立教大学 応用物理化学特論 4		

学習センター・学生の活動

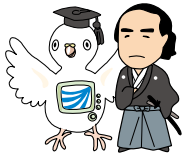
周年記念式典

学習センター及びサテライトスペースでは、開設を記念した周年記念式典が開催されている。

高知学習センター開設30周年を迎えて

放送大学高知学習センターは、開設30周年を迎えました。2024年12月7日には、それを祝う記念式典を挙行することができ、県内の高等教育機関、教育委員会、および中国・四国ブロックの全学習センター所長・事務長など、多くの方々にご参集いただきました。式典では、最初に深見公雄所長から式辞が述べられ、そののち、放送大学学園の高橋道和理事長、放送大学長の岩永雅也先生、高知大学長受田浩之先生、当センター学友同窓会の池昭満会長の各氏からご祝辞をいただきました。また、式典のあとには、記念講演として、本学学長の岩永先生に、我が国では1980年代中頃以降、生涯学習が重要視されるように

なったが、その中で放送大学は生涯学習に対してどのような役割を果たしていくべきかについてのお話を、また上東治彦様には高知の酒造りに関するお話、すなわち土佐酒は全国一辛口でキレがあると云われるが、それはどのような成分によるのかなどの科学的な知見のお話をしていただきました。いずれも、私たちの“教養”を深める、とてもいい機会になりました。また、夜の祝賀会では、全部で14銘柄の土佐酒を飲み比べ、講演会で学んだ内容(座学)を実際に体験する機会(実習)とすることができ、皆さんには、大いに楽しんでいただくことができました。



深見公雄所長 式辞



講演会

2024年度 周年一覧

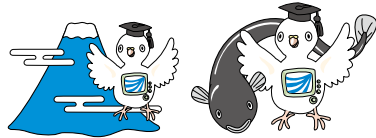
SC/SS	旭川SS	いわきSS	新潟	三重	高知	北九州SS	大分
設置年度 (西暦)	平成11 (1999)	平成16 (2004)	平成6 (1994)	平成6 (1994)	平成6 (1994)	平成11 (1999)	平成6 (1994)
2024年度	25周年	20周年	30周年	30周年	30周年	25周年	30周年

入学者の集い・学位記授与式

3月下旬～4月上旬及び9月下旬～10月上旬に、各学習センターで開催されている。開催した、静岡学習センター・浜松サテライトスペース及び奈良学習センターの様子を紹介する。

静岡学習センター・浜松サテライトスペース
2024年度 第1学期 学位記授与式
2024年度 第2学期 入学者の集い

放送大学静岡学習センターでは、この度2024年度第1学期学位記授与式並びに第2学期入学者の集いを9月29日(日)浜松市地域情報センターで、10月6日(日)静岡学習センターで執行了しました。学位記授与式には、静岡学習センターで14人、浜松サテライトスペースでは15人の卒業・修了生が出席し、厳かな雰囲気の中で開催されました。石井所長より一人一人に学位記が授与され、それぞれの思いを胸に御卒業・御修了されました。放送大学から旅立つ人、再入学し新たな分野に挑戦する人、さらに探求心をもって大学院を目指す人などさまざまです。静岡学習センターでは、式終了後に静岡同窓会が呈茶席を設け、思い出話に花を咲かせていました。卒業生の皆さんの今後のご活躍を、職員一同、心より祈念しております。※2024年度第1学期卒業・修了生(静岡SC:26名 浜松SS:31名)入学者の集いには、静岡学習センターでは53人、浜松サテライトスペースでは35人が出席されました。学長メッセージ、所長挨拶、客員教授・職員の紹介の後、教務ガイダンス及び学燈会の説明が行われました。浜松サテライトスペースでは式典終了後、学燈会が自らの学生生活での体験談を話したり、新入生からの質問に答えたりして、これから始まる学生生活をサポートをしていました。新たな学びに向け大きく羽ばたくこと、職員一同願っています。



奈良学習センター2024年度第1学期学位記授与式

9月29日(日)、「2024年度第1学期卒業証書・学位記授与式」を放送大学奈良学習センターにて挙行了しました。第1学期卒業生21人のうち、11人が出席され、岩永学長からのメッセージに続き、井上所長より卒業証書・学位記が授与されました。また、所長による式辞に続き、来賓代表として奥田同窓会会長より祝辞が述べられました。その後、記念撮影、懇話会が行われました。2024年度第1学期奈良学習センター卒業生21名
《教養学部》生活と福祉コース6名、心理と教育コース7名、社会と産業コース3名、人間と文化コース3名、情報コース2名



奈良学習センター2024年度第2学期入学者の集い

9月29日(日)、「2024年度第2学期入学者の集い」を放送大学奈良学習センターにて挙行了しました。岩永学長からのメッセージに続き、井上所長からの挨拶、奥田同窓会会長の祝辞、中澤隆先生、駒谷昇一先生、お二人の客員教員の挨拶に続いて、客員教員の紹介、オリエンテーション、サークル紹介などが行われました。なお、2024年度第2学期の入学者数は、学部124人、大学院4人でした。

文化祭

毎年、多くの学習センターで文化祭を開催し、学生の学習成果や学生団体(サークル)活動の成果を発表、披露している。文化祭は学生同士の交流の場であると同時に、教職員、そして地域の人々も参加し、交流を深める機会となっている。

埼玉学習センター「第18回埼玉フェスタ」

2024年9月14日(土)、15日(日)の2日間にわたり「未来を拓く」をテーマに第18回埼玉フェスタが開催されました。当日は在学生や卒業生、また一般の方々も多数来場され、活気にあふれる学園祭になりました。



イベントの紹介

1日目は、音楽祭と銘打って各音楽系サークルと個人参加者が日ごろの成果を披露し、たいへん盛り上がりしました。プログラムの最後には元同窓会長が率いるジャズバンドが登場し、この日一番の歓声に包まれました。また、同時並行で行われた講演会「天下人の実像～信長・秀吉・家康徹底解説～」は多くの受講者で埋まりほぼ満席となりました。

2日目は、朗読の会やダンス系サークルが素晴らしいパフォーマンスを魅せて、観客を喜ばせていました。さらに、展示コーナーには2日間を通して書道や絵画などの成果物が飾られ、見るものを楽しませていました。



さいたま市宇宙劇場とのコラボレーション講演会

今回の埼玉フェスタでは同一ビル内の「さいたま市宇宙劇場」とコラボレーション講演会を同時開催しました。講演は、埼玉学習センター客員教授の田中信行氏を講師に招き「宇宙の中の地球という星」と題して地球環境に関するさまざまな事柄をプラネタリウムの巨大スクリーンを使いお話し頂きました。また、第2部としてミニコンサートも開催され、ミュージシャンの和佳奈さんが満天のステージで迫力のある歌声を披露してくださり、観客を大いに沸かせていました。

学生研修旅行

学習センターでは、学習活動の一つとして、研修旅行を年1回程度開催している。研修旅行は、学生・教職員の親睦のよい機会ともなっている。訪問先は、学術機関、地域の名所・旧跡、体験学習など多彩である。



山梨学習センター学生研修旅行

横浜港の開講とともに発展した横浜を学ぶ ～神奈川県立歴史博物館、帆船日本丸等を訪ねて～

2024年10月6日に学生研修旅行を実施しました。当日は、主に3つの施設を見学しました。最初に訪れた『日本新聞博物館』では新聞の歴史や、記者の仕事について知ることができました。『帆船日本丸』では、29枚ある全ての帆を張る「総帆展帆」と船内を見学し、『横浜みなと博物館』では、横浜港に関する歴史や役割等を学びました。

中華街での昼食後は、国の有形文化財に指定されている歴史的建造物『横浜三塔』に魅了されながら、『神奈川県立歴史博物館』へ。原始から現代に至る神奈川県史の歴史を時代ごとに学び、原始生活、中世の鎌倉幕府、近世の街道と庶民文化、近代の横浜港などと興味深い展示に皆さん興奮気味な様子でした。

盛りだくさんのスケジュールだったため、「時間が足りない…」のお声もしばしば。本当に学びの多い充実した学生研修旅行となりました。終了後のアンケートでは、参加者の皆さんから、次回の研修旅行先についてご希望もたくさん寄せられました。



《学生研修旅行行程》
山梨学習センター出発(7:45)→日本新聞博物館→帆船日本丸(総帆展帆、船内見学)、横浜みなと博物館→昼食(中華街)、散策→横浜市開港記念館、神奈川県庁、横浜税関(横浜三塔を車内から見学)→神奈川県立歴史博物館→山梨学習センター到着(18:30)

公開講演会

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。本学教員に加え、各地域や分野で活躍する多彩な方々を講師にお招きし、本学学生に限らず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、共に考える機会を提供した。

広島 学習センター



テーマ 広島県が得意とする柑橘類の生産と栄養の特性
開催日 2024年11月2日(土)
講師 矢中 規之(広島大学大学院統合生命科学研究科教授) 細野 賢治(広島大学大学院統合生命科学研究科教授)
会場 放送大学広島学習センター 3階大講義室

広島学習センターは2024年度の文化祭に合わせて、広島大学大学院の矢中 規之教授と細野 賢治教授をお招きし、「広島県が得意とする柑橘類の生産と栄養の特性」という公開講演会を開催しました。広島県は柑橘産地として古くは明治時代までさかのぼることができ、歴史的にも銘柄産地として知られています。この講演会では、広島県民の私たちにとって馴染みの深い柑橘類について、栄養面での機能性や生産の状況などの理解を深めることを目的としました。矢中先生には「柑橘類をはじめとする農産食材の栄養成分や商品化」というご講演をいただき、柑橘類には人の疾病を予防する機能成分が豊富に含まれること、柑橘を使った食材の商品化に携わった貴重な経験、広島県では最近「瑞季」という新品種のミカンが開発されていることなどが紹介されました。細野先生には「広島県における柑橘生産・販売の現状と展望」というご講演をいただき、我が国の柑橘生産地の動向、そして広島県の柑橘産地としての地域特性や、広島レモンの栽培が発展した歴史や様子などが紹介されました。講演を拝聴して、柑橘の機能成分や、生産農家の不足問題にどのような対応が考えられるかなどの多くの質問があり、柑橘類産地としての広島県の魅力の理解を深めました。



徳島 学習センター



開催日 2024年9月7日(土)
会場 道の駅「大步危」及び周辺地域

【第Ⅰ部 一般向け講演会】
演題 「大步危小歩危」その本質的価値と見所
講師 石田 啓祐 先生(徳島大学名誉教授)

「大步危」の背斜構造は、どのようにして日本列島が形成されたのかを覗き見ることができる「大地の窓」です。地質学がご専門で「大步危小歩危」の天然記念物指定に携わってこられた石田先生より、プレート運動とこの地域の地質構造などを、分かりやすく解説していただきました。

【第Ⅱ部 徳島同窓生による放送大学体験】
講師 徳島同窓生 柳本 聖、大戸井 祥二

徳島同窓会の柳本さんと大戸井さんより、放送大学の説明と実際にインターネットに接続して、オンライン授業体験を実施していただきました。オンライン授業やライブWeb授業など、放送大学の授業形態も日々進化しています。在学生の方、これから入学を考えている方にも大変参考になる内容でした。

【第Ⅲ部「大步危」見所見学会】
講師 石田 啓祐 先生(徳島大学名誉教授)

県指定天然記念物の「含礫片岩」と大步危背斜構造の地層を、石田先生とともに実際に野外で観察しました。国指定天然記念物指定地の「大步危」エリアを吉野川に沿って南から北に移動すると、地層の傾きが南向きから水平になり、さらには北向きに変化する様子を体感できました。参加者から石田先生への熱心な質問が印象的でした。



学生団体(サークル)活動

学生同士の親睦を深め豊かなキャンパスライフを築くため、
本学はサークル活動を支援している。年齢や人生経験が異なる人達との交流が、共通の目的を持って活発に行われた。



Voice of the Circle

【会津学知会】

会津で楽しく学と知を求めて活動中

会津学知会 庄司 利則

会津学知会では、豊かな人生を送るための主な積み重ねとして「学ぶ喜び・学問の向上・社会奉仕精神の醸成」等を心掛けています。息長く活動中(福島同窓会と共催)の主な行事を紹介します。

10月の歴史散策では、会津鶴ヶ城を始め史跡の多い会津若松市を軸に自分の目と足で現地をタテから横から確認できる楽しみがあり好評。

11月には一般市民の方も参加するミニ講演会を開催し、テーマとして野口英世〜会津小正月の団子さし(花餅)等幅広く、難しいことも易しくお聞きできる良い機会となっています。定例会(年に4回程)では「一人一話題提供(30分間プレゼン)」の場を設け、話題提供後の全員参加による自由懇談の中で知的多様性と見聞の広がりを実感しています。会津学知会HP開設中。是非ご覧下さい。

9月の3.11大震災フィールドワークでは、原発の廃炉作業に組むエリアの双葉地方や津波被害を受けたいわき市等の震災関連施設を7回程訪れました。今後も復興状況応援も含めて継続予定です。



Voice of the Circle

【放送大学あすなろ会】

放送大学発足と同時期に設立のサークル

会長 真下 吉弘

あすなろ会は、昭和61年3月放送大学発足と同時期に設立された学生サークルです。会員数はコロナの5年間で大幅減少しましたが、現在約40名が在籍しております。企画部、IT部、カメラ部、歴史散歩、俳句会、秋の一泊旅行があります。カメラ部、歴史散歩では東京近郊の花の名所や歴史的な場所を訪れ、親睦並びに自己啓発を行い楽しんでおります。

俳句会では、毎月原則第四木曜日に文京学習センターで、対面による俳句会とメール投稿による俳句会を実施しております。

また、俳句集吾亦紅を年1回発行しております。秋の一泊旅行では関東、東海地方へバスで行ける伊藤園ホテルズで毎年安価な費用で楽しんでおります。総会は、小石川後樂園涵徳亭で和食を楽しみながら、また開始1時間前には歴史的な庭園を散策しております。活動の状況はホームページ<https://hdasunarokai.com/>で紹介しております。放送大学あすなろ会でも検索出来ますので、見ていただければ幸いです。



Annual Review 2024

データで見る放送大学

在学学生数 単位:人

▶教養学部	学生の種別等	在学生
	全科履修生	59,660
	選科履修生	12,471
	科目履修生	5,938
	特別聴講学生	2,872
	合 計	80,941
▶大学院	学生の種別等	在学生
	修士全科生	652
	修士選科生	2,309
	修士科目生	480
	修士特別聴講学生	13
	博士全科生	85
	合 計	3,539

(2024年度第2学期)

(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

集中科目履修生 単位:人

学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	798

(2024年度)

教職員数 単位:人

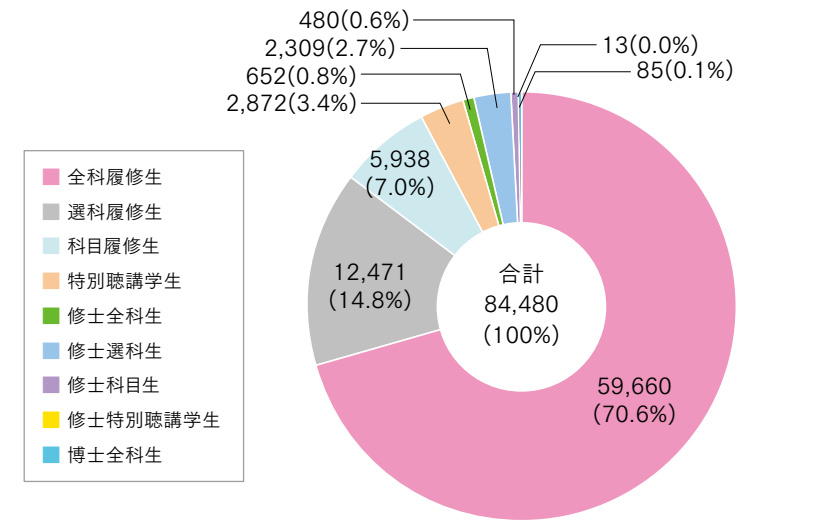
役員	6
教員	89
学習センター所長	50
事務職員	252
合計	397

(2024年4月1日現在)

単位互換協定締結校数 単位:校

学校の種別	校 数
大学院	15
大 学	323
短 大	94
高 専	17
合 計	449

(2025年3月31日現在)



入学者数 単位:人

▶教養学部	学生の種別等	1学期	2学期	合 計
	全科履修生	7,179	4,272	11,451
	選科履修生	8,243	4,150	12,393
	科目履修生	4,601	5,938	10,539
	特別聴講学生	988	2,872	3,860
	合 計	21,011	17,232	38,243
▶大学院	学生の種別等	1学期	2学期	合 計
	修士全科生	220	—	220
	修士選科生	1,606	673	2,279
	修士科目生	416	480	896
	修士特別聴講学生	24	13	37
	博士全科生	14	—	14
	合 計	2,280	1,166	3,446

(2024年度)

学部卒業生数 単位:人

1学期	2学期	合 計	累 計
2,237	4,064	6,301	143,806

(2024年度)

大学院修士課程修了者数 単位:人

1学期	2学期	合 計	累 計
4	198	202	7,347

(2024年度)

大学院博士後期課程修了者数 単位:人

1学期	2学期	合 計	累 計
—	4	4	52

(2024年度)